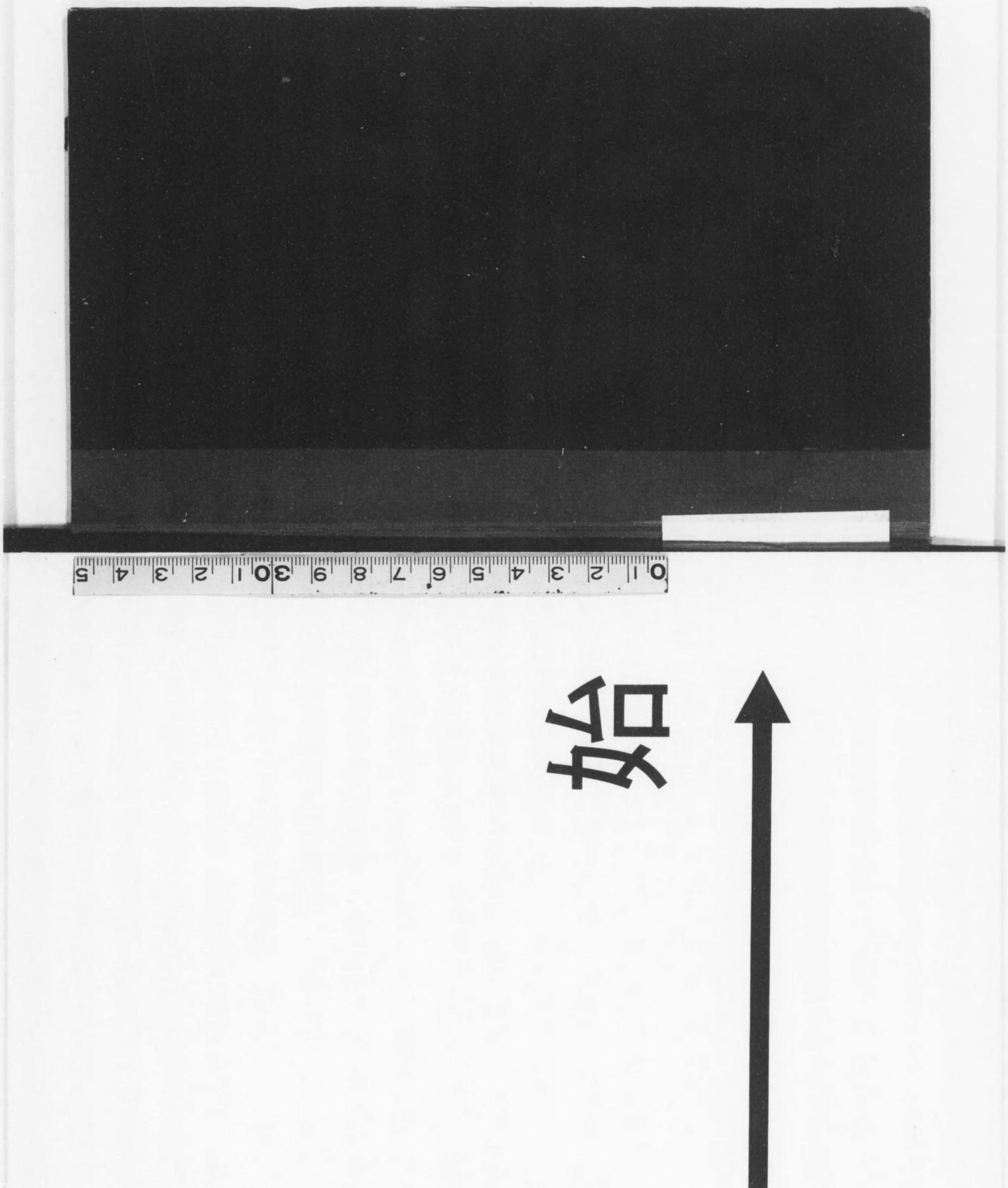

設

## 序言

本速記講座は，速記實務と，熊崎式速記學院專務講師として直接教授，通信教授，各市教育會主催等の速記講習會等を擔當して得た多年の體驗に基き，初心者のために實際的な速記術講義として萬全を期するため，次の諸點に注意を拂ひ講述しました。故に本講座は直接教授と同樣に充實したものであり，短日の講習等に教授するものに比較して幾層倍かの徹底した內容を有つものであることを茲に特記し受講生諸君の奮起を希望し，その前途を祝福する次第であります。

1，在來の獨習書に見られるやうな講述者の鵜呑み込みを除いたこと。

2，實力本位の能率的な配列法を用ひたこと。

3，熊崎式の機能を最高限度に發揮せしめたこと。

これに依つて今まで聞かれた速記獨習の至難，不安から免れて，地方的に一層有爲の士を出すと共に，一方我が熊崎式の體面を瀆すやうな本式類似の跋扈と，それによつて速記學習希望者が誤れる術式に禍されることを未然に防ぎ，而して我が熊崎式の本流を永遠に確立し，新日本文化の建設により以上の貢獻を爲さんとするものであります。

尙本講座完成に當り本會講師岸精君の努力も亦大なるものあることを特記して感謝の意を表します。

熊崎式速記學院

專務講師　成田晴彥

## 初等篇目次


序　言 …… 1
目　次 …… 2
開講の辭 …… 3
序　講
1. 速記文字の割出 …… 7
2. 五十音表 …… 12
3. 速記上の假名遣 …… 17
第一講　ア　行 …… 19
第二講　ア行長音 …… 23
第三講　鼻　音 …… 27
第四講　ワ　行 …… 29
第五講　カ　行 …… 31
第六講　長音と濁音 …… 36
第七講　促音と複語 …… 42
第八講　サ　行 …… 47
第九講　タ　行 …… 55
第十講　ナ　行 …… 60
第十一講　ハ　行 …… 63
第十二講　パ　行（半濁音） …… 67
第十三講　マ　行 …… 70
第十四講　ヤ　行 …… 73
第十五講　ラ　行 …… 76
初等篇を終へて …… 79
科外講話
1. 學習に就ての覺悟 …… 82
2. 速記の用具 …… 91
3. 初學者の練習法十則 …… 94


以　上

372-884

## 開講の辭

唯今から、本邦速記界の粹と稱せられ、全國專門速記者の八割までその術式を實地に用ひ、日本文化の第一線に立つて活動してゐる我が熊崎式の速記術の講座を開設するに當り熱心溢れるばかりの諸君の受講を得ましたことは本會と致しまして寔に欣快とする處であります。

諸君も既に御承知の如く、今日の文明を建設する上に於ける速記術の働きは寔に眼ざましいものがあるのでありまして、手近なところでは毎日私共の眼に映ずる新聞、雜誌は申すに及ばず各種の講演、議事錄、著述等から官廳、民間營利會社の事務等あらゆる方面に亘り、隱れたる速記術の偉力は漸く社會的に重要視されるに至り、速記術禮讃の聲は澎湃として起るに及んで玆に日本文化史上に於ける速記術試用の時代は終りを告げ、いまや第二期の輝かしい希望の光りに送られて速記術普及、實用の時代に展開されつゝあるのであります。

殊に文明の常態としまして、私共の生活が極端に複雜となり、生存競爭は日を追ふて猛烈さを加へ、形式的な學校

の卒業證書、情實的な就職關係はその影を失ふの餘儀ない有樣となり、凡てが實力と、力强い雄々しい信念と、異常な忍耐心を有つもののみに勝利の榮冠が輝く時世とはなつたのであります。また一方に於きましては、生活の複雜さから脱れるために時間の短縮、地理的障碍を除き遠近の差を征服するに餘念なく、太平洋横斷飛行の成功はこれを雄辯に物語るものであつて、世を擧げて"スピート時代" "超高速度時代"となり、一私人の生活能力もそのスピートの緩急と實力の有無によつて成功不成功の岐路に立つとまで極言され、またそれが事實の上に立證される時代となつたのであります。

考へるまでもなく、斯樣な時世に於きまして、一私人の生活を見ても、同輩と同樣の實力では永久に同じ進路を、同じ方向に辿るのみで些かの進展すべき餘裕も見出されぬのでありますが、この場合、自分が同輩の有たぬ特殊技能を習得しそれを實用に供し得たならば如何にその生活が力强くなるか、如何に新しい進路が開かれるか、如何によい機會を掴み得るか、それは想像に餘りある事柄なのであります。之等の觀點からしても、この要求に應するものゝ第一のものとして私共の生活と速記の關係を看過する譯には



行かないのであります。

また社會的狀勢からしましても、文化の發達するに隨つて速記の需要は今後年を追ふて繁くなると共に、實力時代に於て優秀なる專門速記者を求める傾向が濃厚となる、一方生活の複雜さに比例して現在の漢字は使用を喜ばれなくなり出來る限り簡單なる補助文字を使用するやうになる、その結果簡易文字の實用化から速記術は一つの常識となり補助文字として萬人に使用される、等の事柄が豫測されるのであります。

この時代に魁しまして、本講座を開設しましたことは寔に意義あることでありまして、本講座によつて

1、自分の從事せる仕事に速記を應用し、他に卒先して特殊技術を以て自己の地位向上に資する人々のため
2、趣味として速記を研究する人々のために
3、更に進んで專門速記者として活動せんとする人々のために

新文化建設への中堅人物を送り出さんとするものであります。而して諸君が習得せんとする我が熊崎式速記術は、既に完成發表以來三十餘年の榮ある歷史を有し、邦語速記術中その尤なるものとして廣く定評あり、全國的に獨習に依

る專門速記者を多數輩出して速記獨習の至難を覆へしつゝありますが、諸君に於かれましても、特色ある本講座によつて先輩より以上に惠まれた環境と、何ものをも征服せずんば措かぬ處の追眞力と、異常なる忍耐と相俟つて、先輩學習者の跡を濟すことなく、有終の美を擧げられるやう切に希望すると共に、“努力と忍耐のあるところに不可能なし”の一句を呈して開講の辭と致します。

熊崎式速記學院
理事　中村彰吾

## 序講

1. 速記文字の割出
2. 五十音表
3. 速記上の假名遣

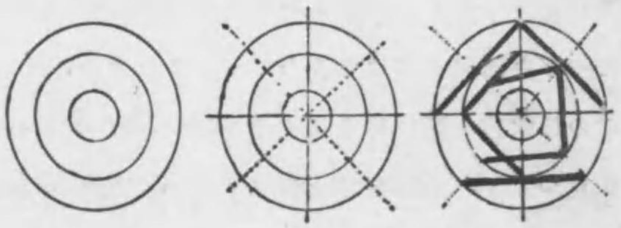
## 1. 速記文字の割出

千里の道も一歩より——で愈よお待兼ねの我が熊崎式速記術の講義に入ることになりますが、たゞ速記文字を並べた丈けでは誤つて覺えないとも限りません。この蚯蚓の匍ひ廻つたやうな速記文字はどうしてつくられたか、わたしやその日の風次第、圓い卵も切りやうで四角式に書き易い形を勝手につくり、これを五十音やイロハにしたのではないか——と考へられますが、決してそんな出鱈目なものではない。チヤンとした出所があり幾何學的に皆それゝゝ據り所があるのであります。

一體それはどう云ふものからつくられるか、何を基準に

して生れるか、と云へば、大中小の圓形、即ち三重マルが基礎となつて（第一圖）これに縱、横の線を引き、左右から斜線の假線を引いて（第二圖）その中に更に斜、縱、横線を以て區別したのが（第三圖）不思議な速記文字の本態なのであります。これに就ての詳細は各行で説明しますが、斯うして得た大小長短の曲直線が三十個になる。この三十個の線が基本符號の全部なのです。で、結局この三十個さへ覺えると基本符號は終つたと云ふことになるので後は長短とそれに小圈や橢圓をつける――などのことで問題ではないのです。

第一圖　　第二圖　　第三圖



**小圈符號**

これを各圓毎に分解して見ませう。まづ三重マルの中心である小圓からどんな速記文



字が出るかと云ひますと、四個の半マルと、四の短い直線と合せて八個の符號が生れます。これを母音（アイウエオ）と、半母音（ワヰウエヲ）、二重母音（アイ）に使ふ。處が半母音の中で必要なのはワ一字だけで、あとのヰウエヲの四字は母音のイウエオをその儘に充てる事にしてあるため全然使はぬやう速記式の假名遣で約束をすることになつてゐるのです。これだけでアイウエオ(ヰウエヲ)、ワが出來たが、まだ二つ使へる符號が殘つてゐるので、その一つでウをもう一字つくる、そこでウの符號は二種になつた（何故にウばかり二種の書き方が必要かはア行で説明します）、最後の一つで二重母音中で一番多く使はれるアイの符號にしたのです。これで小圓全部の分解が終つて文字の割當がきまつた。

小圓出身の文字――ア、イ、ウ、エ、オ、ワ、アイ、ウ――八字

小圓出身文字の大きさは約一分の長さに書くを原則とす

**中圓符號**

サア今度は中圓です。三重マルの中圓からは八つの曲線と、五つの直線を取り、父音（カサタナハマヤラの八音のこと）が生れ、拗音のキャ、シャ、シュの三字。タ行のツ、半濁音中のパなどの二字が生れる事になります。中圓は非常に能率的な圓で、熊崎式の中樞

となる主要符號は皆この中圓から生れて居り、邦語中一番多く使用される文字ばかりです。

この中圓出身の父音カサタナハマヤラの八符號が基礎となつてイ段子音のキシチニヒミリの七符號がつくられ、キャが キ゛、キ。、と變化し、シュ からシ。と變化し、半濁音のパが變化してピ、プの文字が生れる等、この中圓は大變よく活用されて居ります。眼まぐるしく活用されるその基礎となるべき中圓出身の文字は結局下の十三文字なのです。

中圓出身の文字　カ、サ、タ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、キャ、シャ、シュ、ツ、パ＝＝十三字

中圓出身の文字の大さは小圓出身文字の二倍、即ち約二分の長さに書くを原則とす。

**大圓符號**

三重マルの一番外側の大きな圓から六つの曲線と三つの直線をとり、オ段子音コソトノホモヨロの八字を、あとの一線を半濁音のポに充てゝゐます。そして之れ等の文字が基礎となつて、エ段子音ケセテネヘメレと、半濁音のペに變化することになつて居ます

大圓出身の文字　コ、ソ、ト、ノ、ホ、モ、ヨ、ロ、ポ＝＝九字

大圓出身文字の大きさは中圓出身文字の二倍、即ち約四分の長さに書くを原則とす。



**文字の決定は**

斯うして大中小の圓形から生れた三十個の基本符號が整然たる統一の下に子音に變化して五十音や、拗音、半濁音、半濁拗音に変を變へて言語寫眞の魔術を演ずる譯ですが、今度はこうして生れた符號をどうして五十音や拗音に割當てたか、と云ひますと、日本語の發音を科學的に分解し、その中で最も、多く使はれる音に對して三十個の基本符號の中の最も簡單で書き易い線を充て、使はれないやうな音に對しては書き難い線を與へると云ふやうにして決定したものですから、自分の手の癖で、この符號は書き難いから別なものと替へる――とか云ふやうな自分勝手の變更は絶對にしては不可ません。

また、速記文字は凡て線の長短、斜縱横直などの角度で反譯するのですから最初から嚴重にこれを守つて戴かぬと進歩が一段と遲れます。文字の大きさも小圓は一分、中圓二分、大圓四分と原則を示しましたが、これは標準ですからこの割合で書くやうにして下さい。文字を大きく書くやうにすると餘分の時間、勞力を費し隨つて運筆が遲れるやうになりますからこれ又最初から標準通りの大きさに綺麗に書くやうに習慣をつけて戴きます。

## 2、五十音表

諸君は前講で、蚯蚓の匍つたやうな速記文字は決して出鱈目なものではない。熊崎式の幾何學的法則に依つて一線と雖も蔑しろにせず愼重な態度で決定されたものである、と云ふことがお判りですネ。そこで割出された基本文字五十音をお目にかけませう。

ホヽ——これが速記文字といふものか、不思議なものだナ、と驚かれる方もあるでせう。たゞ驚くのは名刀正宗の光つてゐるのに感心してゐるやうなもので甚だ感心が出來ない。この名刀正宗にも劣らぬ速記文字が自由に使はれるやうに諸君を待つてゐるのだ。これからその全能力を發揮すべく速記術の本態を明かにしやう。

この五十音表をよく見ると、ヤ行のイ、エ、ワ行のヰ、ウ、エ、ヲ、はア行のものと同じ（理由は前講小圓符號、次講速記上の假名遣參照）、またウの書き方が二通りある。オ、サ行タ行にも正變兩樣の書き方があるぞ、と氣がつかれるでせう。之れ等の詳しいことはその行で說明するとして、斯う



欠

欠

して五十音を一寸見ると餘り簡單すぎて紛らはしいやうであるが、少し注意して二三回見直せば、理路整然、一糸亂れぬ系統のあることを發見されるでせう。そしてその系統を分類してゆくとすぐに要領が判り、記憶に容易なのであります。丁度小學一年生がノタクタと習字して、似たやうな文字の區別を覺えるのと同じ要領なのです。

**記憶の方法**

五十音表を記憶するには、先づ**アイウエオ**の小さな文字の形狀、方向を覺える、それが出來てからア段文字の**カサタナハマヤラ**の八字を覺えるやうにする。これが出來ると他の文字は雜作なく自然に形が出て來ます。即ち**カ**の線端に小さな丸をつけると**キ**と變り、同樣**サ**の線端に小さい丸をつけて**シ**、また**カ**を二倍にして**コ**、**キ**を二倍にして**ケ**、**サシ**を二倍にして**ソセ**、と云ふやうに皆ハツキリした連絡があるのです。これを整理すると下のやうになります。

カサタナハマヤラ═══を二倍にして＝**コソトノホモヨロ**

キシチニヒミリ═══を二倍にして　＝**ケセテネヘメレ**

クスツヌフムユル═══縱直曲斜線、線端に小圓楕圓あり

アイウエオ、ワ、ヤ═══小文字

ワ行で**ワ**一字、ヤ行で**ヤユヨ**の三字になる譯ですから五十

音と云つても實際は四十六字よりないことになり、しかも長短の同形文字を省くと僅に三十一文字となるのです。實に驚くべきものでせう。このやうに極度に生きてゐる文字ですからよい加減にやつてゐるとうまく糸をたぐることが出來ず五十音の記憶に四苦八苦するのです。そんな無駄なことはせずに今まで說明した系統に從つて分類して行き、ア行ワ行は全部一分の長さ、カキクの三段はずつと下まで打つ通しに全部二分の長さ、ケコの二段はこれまたどこまで行つてもその下は全部四分の長さ、と云ふ要領で五十音表を睨めると直ぐ判るでせう。熊崎先生曰く

五十音でもわしや四十六字　變る姿は和歌の數

1、五十音表を室内やノート裏に澤山書いて下さい。

2、電車の中でも絶へず指を動かして書いて下さい。

3、一旦間違つて覺え込むと永い間苦しむ。

4、カードをつくつて盛んに應用を研究して下さい。

科外講話の
1. 學習に就ての覺悟
2. 速記用具
3. 初學者の練習法十則
等の生きた記事をよく御覽なさいそしてそれに隨つて大いに勉强して下さい。



## 3、速記上の假名遣

停車場構内の驛名標が大臣の變るのと一緒によく塗替へられて別な平假名文字が書かれます。驛名でも變つたのかと思ふとさうぢやない。驛の名稱は漢字で書くと前とちつとも變りないが、平がな文字で書くと違ふ、そこで塗替へたり、消したりすると云ふ珍らしい國が何處かの文明國にあるさうです。これは何のためかと云ふと、同じ聲音に響く發音でも文法と云ふものによつてそれ〻異つた假名遣を用ひなければならない、と云ふ譯で、前に文法通り書いたものを今度は發音通りに塗替へ、それを又訂正したのださうですが、このやうに厄介千萬な約束は速記上では一蹴してよいのです。何故ッて—— 速記は云ふまでもなく他人の話を發音によつて速く書き記すのが目的です。その一秒間を爭ふ場合に臨んで一々呑ン氣に假名遣などの區別を詮議しながら書くなどと一體考へられることですか。實際速記上の場合に若しこの假名遣を私共が學校で習ふ教科書のやうに嚴格に正しく書かなければならぬとしたならば、速記の眞の働きと云ふものは非常に阻害され、遂には打壞はされて了ふに相違ありませんから、速記上に於ては、これ

を全然度外視して、苟も同じ聲音に聞える發音に對しては、總て同じ符號を用ひて書き現はすことに定めたのであります。例へば高い、率ゐ、誓ひ、などの い、ゐ、ひ。又は與へ、飢え、の、へ、え。などのやうに皆同じ音に聞へるものは、面倒な思ひをして一々文法通りに書き分ける必要はない、總て一樣に、イ、エの符號を共通に使つて速記し、後で反譯の時に初めて正當な假名遣による文字を當てはめることにするのです。次にその凡例を揭げて諸君の學習上に惑ひなきやうに致します。

1、イ と發音する ヒ、キ は皆 イ の符號を用ふ

2、エ と發音する へ、エ は皆 エ の符號を用ふ

3、オ と發音する ヲ、ホ は皆 オ の符號を用ふ

4、ワ と發音する ハ は ワ の符號を用ふ

5、ジ、ヂ は何れの符號を用ひてもよろしい

6、カ と發音する クワ は カ の符號を用ふ

7、コ と發音する クヲ は コ の符號を用ふ

**速記箴言**

速記の練習は實力の上達を期するにあり、されど徒らに速かに書くばかりが能にあらず。要は完全に實用に供するにあり。



# 第一講 ア 行

諸君の幸福を双肩に荷ふて現はれました熊崎式速記術は愈よ本日のア行からその講義が始まりますが、お互ひに忙しい生活をしてゐるのですから下らぬお世辭や愚論は一切抜きにしまして早速その本陣に突貫することゝ致します。

既に符號の割出、五十音のところで御承知のやうにア行の割出しは全部三重マルの中心である小圓から生れたもので百聞は一見に如かず上圖を比較して御覽下さい。

**書き方**

そこですぐ書き方の說明に移ります。小圓出身ですから長さは全部一分位を原則とします。アは圖のやうに直徑一分位の小圓を横に切つた上半分と云ふ形で左から筆を起して右へ引く。イは小圓を縱切りにした右半分の形で上から起筆し下へ引

く、ウは數字の一を書くやうに横直線を左から右へ引くものと、それを縦にしたもので上から下へ書き下げるものと二通りの符號を有してゐるのです。ウにばかり二種の書き方があるとは贅澤ではないか。と云はれる前にもう一度五十音表を御覽下さい。横のウばかりですとウカの連綴をどうします。また縦のウばかりですとウツと綴るときは――この通りウカ一々出來ないのです。次にエは縦のウを左へ四十五度傾けた形、オはその反對に右の方へ傾けたもので共に上から下へ筆を運ぶ、アイはアの符號の下半分で左から筆を起して右へ書きます。例外としてオだけ下から起筆して上方へ運んでもよいのでこれは最も多く使はれるので一層簡捷を圖るためなのです。そこで書き方を整理しますと次のやうになります。

| | |
|---|---|
| ア、ウ(横)、アイ | 左から起筆し右へ |
| イ、ウ(縦)、 | 上から起筆し下へ |
| エ | 左上から右下へ |

オ（二種の書き方あり）右上から左下へ、左下から右上へ

それからウの縦と横線の使ひ分けを云ひますと、大體

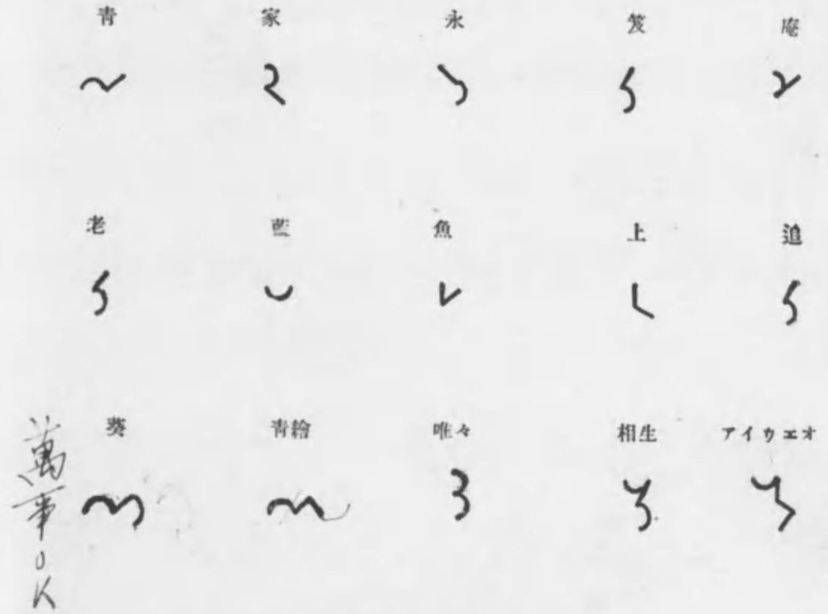
縦ウ　前に斜或は横線の符號があるとき、次に横線の符號が續くとき



横ウ　前に縦線符號があるとき、次に縦線或は斜線の符號が續くとき

ですが普通は縦のウが使はれます。一つ綴つて見ませう。

## 綴　字　例



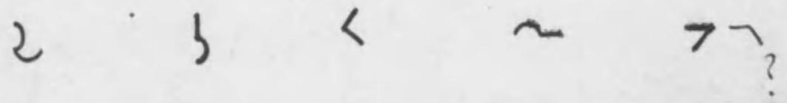

**綴り方**

ア行六文字だけでもこの通り大ぶ書く言葉があります。青の綴りはアに逆筆を使つたオをつける、この場合アの筆端からすぐオを起し切つたり筆がブラついては駄目です。またこ

のアオに右上から左下へ書き下げるオを使はないのは、アオの綴りの境がハツキリせず後で讀むとき困るのです、速記は出來るだけ不明瞭な綴りを避けてこの通り明かなそして樂な書き方をするやうにこの際特に申上げて置きます。庵(イホ)は速記上の假名遣によつてイオと書きます。魚の書き方はウオ兩方共に正變二樣の書き方がありますが、どちらでも書き易く讀むときハツキリするやうな綴りの符號で書きます。こんな調子でいくらでも綴つてゆかれるでせう。

字例でよく練習して課題をみつしり研究して下さい。

## 練習課題



嗚呼　憂い　御家　伊井　遺愛　植え

**本講の要點**

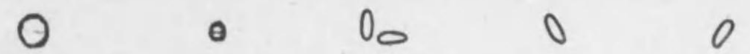
1、大きさは皆一分位の長さに書く

2、假名遣を注意して發音を主とすることを忘れずに——

3、ウとオに二樣の書き方があるが綴字の明瞭正確迅速を頭に入れてその使ひ分けを研究する



## 第二講　ア行長音



ア一　イ一　ウ一　エ一　オ一

ホヽこれが速記か、素敵々々…とア行の綴字例に夢中になつてゐる間に書く言葉がなくなつてしまつた。あゝ困つたナ、と思はず口走つて、オヽそれゝゝそのアーとかオーとか長く引つぱつて發音するのはどう書く、と云ふ疑問が起るでせう。斯う云ふやうに早速疑問を持ち込む諸君は熱心の然らしむる處ですから成功疑ひなしと、太鼓判を捺して保證しませう。盲判ではありませんよ。まア冗談は後廻しとして、アア(嗚呼)、イイ(唯々)などの場合は、綴字上多少不便ではあるが書けぬことはないが、英國、永久、往來、應援、大山、などまさか一字宛書く譯にはゆくまい。しかし諸君よ、心配する勿れだ。上圖を見て下さい。この蟲の卵のやうな形をしたものこそア行長音の本態なのです。

**書き方**

これは皆**ア**行の弟分で小圓が本家ですから大きさは一分を標準とします。**アー**は直徑一分位の全圓、**イー**はアーの一廻り位小さい全圓、**ウエオ**の三長音はウエオの各符號をその字の形に從つて楕圓形にしたものでその長さも角度も同じです。斯樣に出身は明瞭なもので、そこらあたりに轉がつてゐる蟲の卵からヒントを得たと云ふやうな出鱈目なものではないのです。

この書き方も**アーイー**のやうな圓形は書く人の癖で左から、或は右からと書き方が區々ですから書き易いやうに任せるとしても筆力と符號の連綴から云ふと圓は右上から、**ウーエーオー**の楕圓形は共の右側上部、或は下部から起筆して一周して基點に戻り、そこからすぐ次の符號を續ける、と云ふ書き方がよいのです。また**エー**は右へ綴つてゆく速記全體の筆勢と同じであるため一寸書き難いので上から起筆することにして下から起筆し下へ次の符號を續けてゆく連綴はやらぬやう何んでも書き易く、そして符號の綴りが明瞭で讀み易いやうな綴りを自分の癖と合せて御研究下さい。しかし符號の角度、大きさ、その向き、根本の書法を無視した自分勝手の眞似は決して許されるものではないの



です。

次にこのア行長音をよく調べますと、アーイーウーに屬する言葉は非常に少く、嗚呼(アア)、唯々(イイ)のやうなものは長音でなくして、たゞア、イが重り合つた特殊なものですがこれも便宜上長音と見做して使用した方が樂でせう。また、このア行長音はどんな場合でも是非これを使はねばならん、と云ふ譯のものでなく例へば日英を**エチエ**、慶應を**ケオ**、往來を**オライ**、王樣を**オサマ**と綴つても前後の文體内容から一見して、これは長音を省略して普通符號で書いた、と云ふことがすぐ判るでせう。しかし、大野を普通符號で綴つて小野と誤譯することがあるやうに、重要な場合には發音された儘この長音符號で書かねばならぬのですから、餘り使はぬとてオノヽヽ方油斷はなるまいぞ。

また、ア行長音は中等篇に說くやうに各行の縮字基礎符號としてこの儘の形で二度の勤めでスバラシイ活躍をしますからこのことも一寸頭に入れて置いて戴きます。

**ア行長音の法則**

ア行長音は次の法則によつて使用されて居ります。

1、**アイウエオ、アイ、ワ**の七字の間に限りア行長音この儘の形で活用され二音三音目にも使はれる。

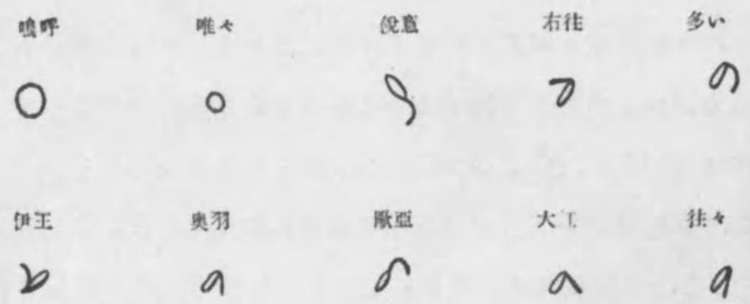
注意

2、右七字以外に於けるア行長音の働きは第一音に發せられるときだけで、第二音以下に發せられた時にはア行長音としてこれを絶對に使はぬこと

**說明** 榮枯、往來のやうにア行長音が先になる時はア行ソ行を問はずどんな場合でもア行長音としての働きを示すことが出來る。しかし慶應、渡歐などのやうにア行長音そのものが第二音以下に來たときにはこのア行長音符を使はずに普通清音のオを連綴する。

これは中等篇で說明する本式の骨子となる縮字法と混同することを防ぐためですからこの法則に從つて連綴して戴きます。

## 綴字例




**本講の要點**

1、ア行長音はアイウエオだけの長音として特に使用するものである

2、この長音符は同じ形でカ行以下の縮字法の基礎になるものであるためア行長音の二法則を嚴守して使用すること。



# 第三講 鼻音

いま迄でア行全部を終り、ア行長音を終り綴字も相老から歐亞の天地にまで一息に飛んだものゝ、どうも書いて見ると符號が足りなくて困る。ア行やア行長音だけて綴り合せる言葉などさう澤山あるものぢやない、とウンゝゝ云ふて苦しんで居る態が眼に映るやうです。そこで今日はそのンを捕へて諸君の机上に提供しやう。

イン、ヘン、リンとか語尾が所謂鼻音で日本文字ではン、と矢張り一字並の待遇をしてゐるが我が熊崎式ではこんな鼻から出るやうな然かも他人の尻馬に乘つて來るやうな音を字の數に入れる筈がない。

**書き方**

アンと來たならばアの線端をチヨイと跳ねる。インと來ても同樣、恰度日本文字のンが、んの筆の終りを跳ねるのと同じ呼吸でやる、速記の鼻音の出所もこゝにあるのです。このンに次の文字が續いて一つの言葉となつてゐる場合はンの鼻音を跳ねた符號に一寸紙一枚位の距離をとつてすぐ次の符號を

續けてゆくのです。我が式の創始者熊崎先生曰く

ウンとカンだその鼻息で　獅子ッ鼻毛が跳ね上がる

これでよいのです、百の說法より先づ綴字例を——

## 綴　字　例

暗雲　因緣　雲煙　延引　奄々

安穩　迂遠　委員　淸い緣　阿呍

媛霜　應援　鴛鴦　雲影　永遠

暗々　慰安　亞鉛　恩怨　云爲

醫院　安應院　陰影　應永　暗影

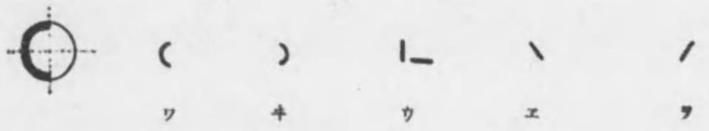
**本講の要點**

1、鼻音を含んでゐる符號の線端を跳ね上げてこれを示す。

2、特に力を入れたり一旦筆を止めてから跳ね上げる必要なく符號の方向に從つて自然の筆力の餘勢を用ひ線尾で力を抜くやうにして書く。



## 第四講　ワ　行

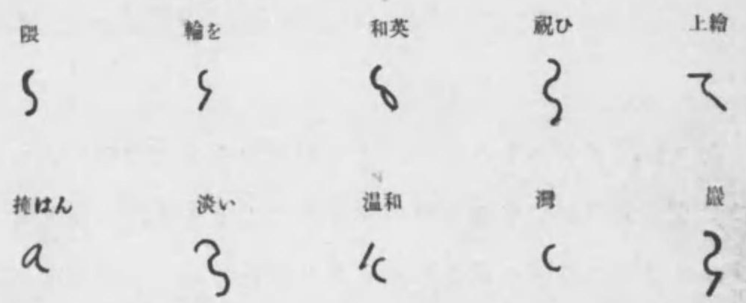



なンだ、ア行からワ行か、と皆がアワを食つて驚かれるでせうがア行に似てゐるワ行をやつてしまうと、小圓から生れた總ての符號の說明が終ることになるし、ア行とも連絡があるために選んだもので實力第一主義にピツタリ合ふことになるのです。

ワ行のワイウエヲの五音はア行と同じ音ですからこれを半母音と云ひます。そしてこのワ行、ア行、ヤ行、に含まれてゐるイ、キ、エ、エ、オ、ヲは皆同じ音であつても使ふ所に從つて別々の意味があるのですが速記ではそんなことに頓着なく發音通りの假名遣で書くと云ふことも御承知でせうネ（符號割出、速記上の假名遣參照）。それで結局ワ行はワ一字だけでよいのです。その形は小圓を縱に割つた左半

分で、イの左半分がワなのです。大きさも小圓出身ですから一分位の長さ、上から起筆すると云ふことや、ンのときにはその線尾を跳ね上げてワンをつくるなど、くどい説明はあくびが出るでせう。綴字例の假名遣に注意して下さい。

## 綴　字　例




**本講の要點**

1、ワ行はワ一字だけ、ワの長音は必要なし

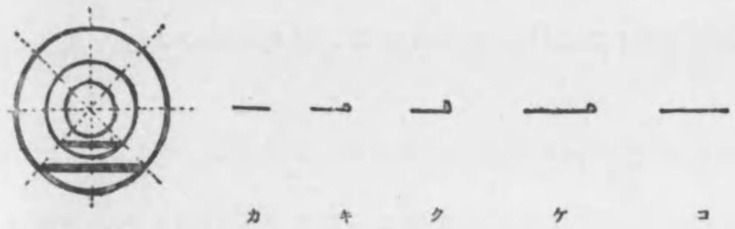
2、祝ひ、掩はん、巌などのハ、ホと書いてワと發音するもの多し。發音式假名遣を守れ、

3、ア、ワ、イ、アイの四字はその形は同じて、だゞ方向の違ひによつて反讀するもの故、混同しないやうに覺えること

愈よカ行に入ります。先を見ずに先づ足許を固めて下さい。今一度練習十則を讀み味つて下さい。



## 第五講　カ　行




お待兼ねのカ行です。御承知の通り中圓からカ、大圓からコが生れてカ行五字が出來上がる譯で中圓から出たカキクは二分、大圓出身のケコは四分の長さに書くのを原則とします。

**書き方**

カは横のウの二倍の長さで横直線、キはその線端を上方にまるめ込んで長音符のイーの小圓をつける、クは同様ウー長音符の楕圓形をカの線端につける、ケはキの二倍、コはカの二倍で書くとよい譯です。クにつく楕圓は珍らしいもので、五十音表でクの屬するウ段（クスツヌフムユル）を下に見てゆくと、クヌムルの四字に縱や横の楕圓がついてゐるでせう。これからもあるのですから十分注意して戴きます。

カ行は全部左から右へ起筆しますが、カはよいとしてキの小圓、クの楕圓のある文字を書くのに先づカの基線を書き筆を離して念には念を―― と悠々小圓や楕圓をつけるやうな阿呆らしいことは止めて一筆に線尾の筆勢を以て丸め込む、そしてその次に來る文字を接續させる準備をする心掛けが肝腎です。

キクケに限らず速記文字は小圓楕圓のついてゐる方が線の止めになつてゐるのです。形が同じであれば―― と云つて出鱈目をやらずに書き方をよく讀んで下さい。

次に大切なのは文字の長短、斜角度などですがカ行では長短を十分注意すること、諸君の想ひ出多き初戀はいつの間にか初貝に變じて初戀の破れしが如く幻滅の悲哀を感じること請合と云ふ調子では全く感心出來ませんよ。

**綴り方**

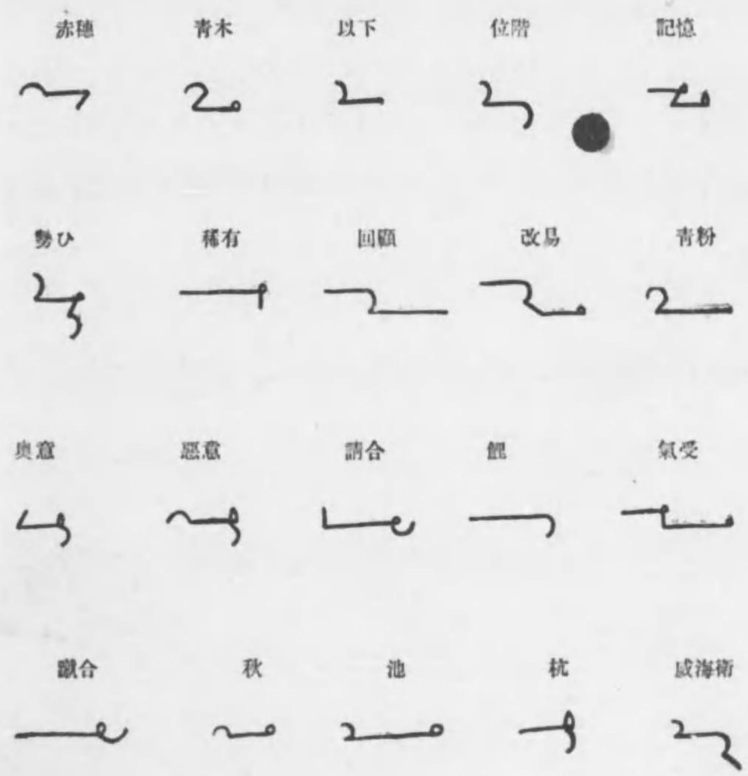
五六音に亘つて一つの言葉となるものは文字の中途で筆を切らず一筆に書く。

中途で切るときは今回のやうにンが入つたときだけのことで、あとは送り假名もその文字にすぐ續ける、ローマ字式に送り假名を獨立させては不可ない。

◀ 請合、氣受―― でウの二通りの使ひ分を見ること、記憶、勢ひのオの出て來る所を注意すること、このやうにク、キの楕圓形や小圓の結びが次に續く文字の筆勢によつて形が變つても根本を崩さぬやうに書くこと、この場合のオは正則が本當です



## 綴字例



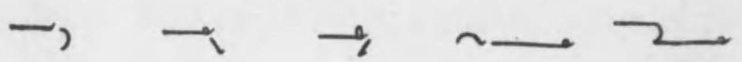

甲斐絹　着換　鵜飼　開化　隱岐

家屋　浮魚　朱(あけ)　皆既　隱下

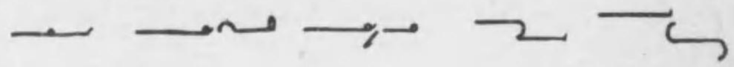
## 鼻音、長音綴字例

そこで習ひ覺えた鼻音ア行や長音を使つて一つ賑かな綴字例をお目にかけませう。この書き方も頗る簡單でカンと來たならばカを横なぐりに勢ひよくやつて線端でスツと力を抜く、キンと來たならば小圓の結んだ端をチョイと跳ね上げる筆法なのです。早速やつて下さい。

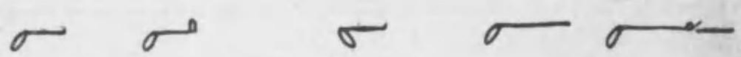
簡易　禁煙　君恩　案件　會見



機關　險惡　檢溫器　快感　懇話會



往還　多く　榮冠　往古　大喧嘩



觀音　見解　大池　訓戒　禁域

榮枯　金庫　運根　アーク　右近



### カ行の發音

カ行中、ケの音でケイと發音するものが非常に多い、例へば景、系、慶、桂、などで、コの音にも孝、公、乞、皇、などあるが兩方とも假名遣の法則によりケー、コーとして扱ふ。

クの音とワ行の半母音が重つてクワ、クヰ、クエ、クヲ、と發音される特殊の音あるが何れもカ、キ、ク、コと響いて聞へるのでその儘カ行で書く。

クエンと云ふのもケンに響いて聞へるのでケンとする。

速記上の假名遣を忘れてゐると能率は半減する。

**本講の要點**

1、カキクと、ケコの長短を注意する。カ行の直線を出鱈目に書くとナ行と間違ふ。

2、一つの言葉を書くとき中途で絶對に筆を切らず一筆で書く。

3、カ行特有の發音に注意して迷はぬこと

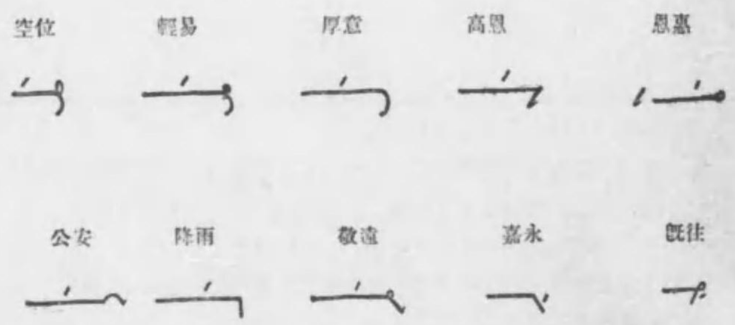
4、過去、柿、國技館等の同行短縮は中等篇に讓る。

斯くして最も効果あらしめよ
(1) あなたは五十音符號を表やカードにして居ますか。(2) 各講の綴字例、課題をやつて居ますか。先に習つたことを忘れて曖昧な書き方や、法則を間違つて居ませんか。(3) 綴り工合の惡るい符號を百回書きますか。(4) 書いた符號を必ず讀返して居ますか。(5) 一講づゝ漸進主義でやつて居ますか。

# 第六講　長音と濁音

前講カ行の發音の處で、景、孝などは**ケイ**、**カウ**と二字の符號で綴らず**ケ**、**コ**の長音として扱ふ。と云はれましたがその**ケー**、**コー**と書くのにどうするか、の疑問が起つた事と思はれます。それには獨特の長音標があつて警戒を**ケカイ**、航海を**コカイ**と綴り簡單な長音標を**ケ**、**コ**の傍に添へるだけで**ケー**、**コー**と元氣よく生きて來るのです。**ア**行文字の**オ**を半分位にしたものを長音を含んでゐる文字に添へるだけでよいので下の綴字例を見て下さい。

## 長音の綴字例






この綴字中、嘉永、既往を注意して下さい。エー、オーの特定した**ア**行長音があるのに何故それを使はずに普通の**エ**や**オ**を書いて長音標をつけるのか、と質問する方は**ア**行長音の法則を今一度よく味つてから前へ進むことです。

**長音標のつけ所**　長音標のつけ所は、綴字例で大體お判りになつたでせうがハツキリ云ひますと、横直線（カ行のやうな）に對しては上部中央に、斜或は縱線には左又は右側中央（サ行、タ行ヤ行は左側、ハ行、ラ行は右側）に符號に接近させて**オ**の小符號を記す。この場合符號につけて書いては不可ません。

**連續長音**　慶應、光榮、西洋など連續した長音の出たときはどうするか。一々筆まめに**オ**の長音標を二つ附けるなどゝ云ふことは速記を研究して居られる諸君には考へられないことでせう。勿論、そこで斯樣なときに使ふ二長音標があります。今まで說明したのが一箇の長音を示すための符號として**オ**の小符號を記して居ました。これを一長音標と云ひます。今度は連續長音を示す符號で長音が二つ含まれてゐる符號の中央に**ウ**の小符號を添へて二長音であることを示すのです。**ケオ**と綴つて**ケ**の小圈から**オ**が出るその境目に**ウ**を小さくしたものを書くだ

けでケーオーとなるのです。

また、東照宮、東京砲兵工廠、工業同盟などゝ云ふやうに三つ以上の長音が出たときにはエの小符號をその綴字の中間に添へて三長音であることを示すと云ふ具合に

一長音標（オの小字）二長音標（ウの小字）三長音標（エの小字）

の三つの書き方が出て來ますが、實際はそこまで嚴密にやらなくとも一長音のオの小字一つで二三長音に共通させてよいのです。

初めの練習時代には斯うした長音標も必要ですが諸君の頭が出來るに從つて不必要となります。それですから最初からこれを省いて練習するのも面白いでせう。言語文章の連絡系統によつて案外スラ〻〻反讀が出來るものです。併し歩兵と砲兵、大澤と小澤、重太郎と壽太郎、小學校と女學校など特別の場合には必ず長音標を忘れぬやう、また長音標はカ行以下の各行にその儘使はれるものですから二度と繰返して說明しません、よく御熟讀下さい。

**本講の要點**

1、長音標とそのつけ所。 2、二三長音も凡て一長音標で間に合ふ。 3、長音標は不要と云つてもよい位であるが特殊の場合には忘れずに附ける。



**濁音**

濁音とは御承知の通り、ガギグゲゴなどその音が濁つて發音されるもので五十音中カサタハの四行二十文字がそれに變化します。日本文字の濁音は點を二つ打つて表して居ますが速記ではそんな手數はかけない。たゞ一點でこれを表はすと云ふ便利重寶なもので、その點の打ち處も清音文字の上部中央（カ行のやうな横直線に對して）、左右兩側（斜縱線に對して）にたゞ點を打てばよいのです。（つけ所は前項長音標を參照、これと同樣でよい）。長音標と濁音加點の區別は

長音標　は文字の近くにオの小字を添へるだけで決してその文字に密着させない。

濁　音　の加點は濁音にする文字に點を打つ、その文字に離さずピツタリつけて加點する

ことで、兩方混合すると變なものが出來上るでせう。

濁音に限らず長音標でも全部の文字を書き終つてから加標、加點するのが本當です。例へば具合クアイと書き終つてからクに加點してグにする。それをせずにクを書き一旦筆を切つてクに加點してからアイをそれに續けると云ふのは間違つた書き方ですから十分御注意下さい。

また濁音が二字以上續いたときの書き方はどうするか。

これは長音標の二長音式にその文字の中間に加點して共通させてこれを表はす。と云ふ調子で何の造作もない。

それからもう一つ、一字で濁音と長音を有つてゐる號外、演藝、工藝、迎合などはどうするか。これの書き方も面白いのです。長音標のオの小字を以て清音文字を打切るやうに交叉して長濁音であることを示す。と云ふから演藝エンケと書いてケの文字にオの長音標を交叉するとエンゲイとなり、それが工藝、迎合と二字以上連續して來るときはその文字の中間にオの長音標を交叉して共同に使用させるなど、凡ては長音標と同樣の約束によつて活用されるのです。

この濁音で、今日片假名の外國語が全盛なためにヴ、ヱ、ヴなどの變な濁音が多く用ひられますが、これも居候もので日本語にない音ですから響く聲音通り書くことでヴはブ、ヱはベ、ヴはバと書いてよろしい。

これで大體濁音も終りました。斯うして見るとオの小字が長音の全部であり、點一つが濁音の全部であつてそれ以外に何等のタネも仕掛けもないと云ふ簡單さがお判りになつたでせう。或る式では文字の濃淡でこれを表はすとか云ふて、清音文字をグツと太く書くとか二倍の濃さに書くとかして區別するのですが、我が式ではこんな面倒な筆速を



害するやうなことはやらずに獨特な方法で能率を擧げ正確な綴りをすることを第一としてゐるのです。熊崎先生曰く

●一寸打つたる點こそ魔術、金がたちまち銀となる。

濁音も長音標同樣、練習時代には必要でせうが、熟練するに從つて不要となります。丁度電報や和歌に濁音がなくとも讀めると同樣で別段不思議とするに當らないが銀に點を忘れて金にするやうなことは特に御注意々々。

## 濁音の綴字例

**本講の要點**

1、長音標との類似點とその區別、

2、濁長音

# 第七講　促音と複語

長音標と同様な濁音を一瀉千里に片付けた諸君は、速記とは前觸れだけ大袈裟で內容は案外簡單なものだ、とし、却つて說明の方がくどいやうに思はれるでせう。事實その通り、これ以外にタネも仕掛もないのです。秩序整然、簡單明瞭なンである。そこでこの研究熱の高潮に達してゐる機會を逸せず更に練習の範圍を廣くするために引續いて促音と複語をやりませう。

**促音**

專ら、尤も、決心、發見、筆記、國家、速記、德化などのやうに二音の中間に挾まつて口の中で詰まるやうな聲音を促音（或は詰音とも云ふ）と云ひます。日本ではこれを表はすにツの文字で滿足して居ましたが、分類するとクの音が詰つてツとなるのもあり、最初からツのものもありますが速記上ではそんな區別を認めずに一つの促音として扱ふと云ふことになつてゐます。

**書き方**

この促音の書き方は一寸面白いのです。並行法と交叉法と二法ありますが判り易くしますと、



1、並行法　促音を含む文字と、その次に來る文字が斜線同志、或は横線同志、或は縱線同志のときは左右、上下に並べて促音を示す。

この書き方も横線同志の國家コクカのやうなときは先に發聲されたコを上に書き、コの中央下部からカを入れ違ひに書いて順序を示す。上下を取違ひて書くことは禁物、斜線、縱線の促音のときも先に發聲された促音を含む文字を左に、次に發聲された文字をその右に書く、この順序は必ず守る

2、交叉法　促音を含む文字が斜線で次に來る文字が横線のときはこれを交叉して促音を示す、

これと同樣に縱線と斜線、横線等の促音を示すときも交叉してこれを表はす

例へば惡化アクカと書くのに、アの中央部をカの頭で中斷するやうに交叉するので、カの符號がアの小圓の中央迄來るやうにする。これが交叉法の原則です。說明だけ讀むと面倒らしいやうですが綴字例を御覽下さい。一見明瞭です。

ところで面白いことに、並行法のときは上と左の方が先に發音された文字で促音がある、と云ふことが判るため國

家を各個に、滑稽が結構になる心配はないが、交叉法の場合はどつちが先か判らない、綴字例の惡化を見て一寸順序が判らぬ、と云ふ質問がよくある。これには大笑ひです。どんな調子か讀んで下さい。讀めますか。惡化や越權を逆讀みするやうな言語が日本にあるでせうか。どうです面白いでせう。疑心暗鬼は禁物、しつかり褌を緊めて下さい。

## 促音綴字例

惡化　越權　おつくう　鬱氣　一氣

**本講の要點**

1、促音の發音に就て、

2、交叉法と並行法、



**複語**

複語と云ひますと、喜々、區々、多々とか一音重出のものや、或は他の音と一緒になつて生きゝゝ、浮きゝゝ、迂かゝゝと重ねて發音される場合の書き方で、これをイチイチ文字通りに書くなンてことは想像だも許さないのです。これを一筆に疊んでしまふと云ふので疊字法とも云ひますがこれ又頗る簡單、前半の一語を書いてそれに續く後半の重複語を省略してしまふ。そして略したと云ふ證據に∧形か∨形の疊字標をつけるだけでよいのです。

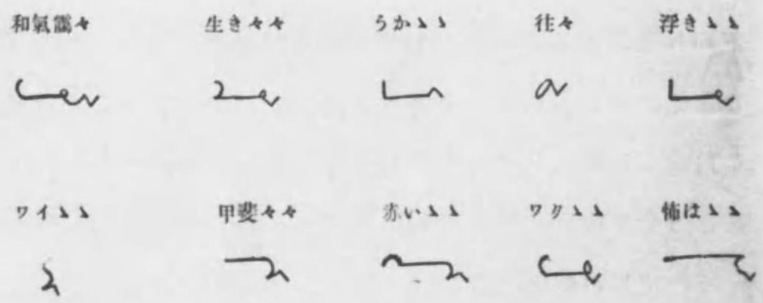
この山形をした疊字標の大きさはア行文字と同じ位の小さなもので、おまけに附けた形でよいのです。餘り大きく書くと普通の文字と誤る虞れもあるでせう。その形も上向下向は運筆の都合でどちらでもよく、無理につける書き方でなく自然に山形がつくやうに滑かにつける。そして連綴の角度も正確に行くやうに注意することです（アイアイの書き方參照）。

また使用の場合も、喜々、區々、多々のやうな一音の重なつて來たものは中等篇の縮字法で省略される能率的な書き方があるから之れ等の文字には疊字標を使ふ必要はなく生きゝゝ、流れゝゝ、返へすゝゝとか二音三音以上の重複

語を疊むやうにするのです。それから、うかゝゝよりも、かはるゝゝの方が長い語であるからその印に山形を幾分大きく書くと云ふやうなこともありますが實際上必要としません、小山形一つで結構です。また疊字した後半の山形に當る語に濁音があるときにはその山形に加點して濁音を表はすとか、之れ等も今までの法則の應用で判りますネ。

何れにしても方法は頗る簡單なものですから理窟さへ判れば應用はお茶の子さいゝゝと云ふ譯で疊字標の角度などに拘泥せずに早速お使ひ下さい。

## 複語の綴字例



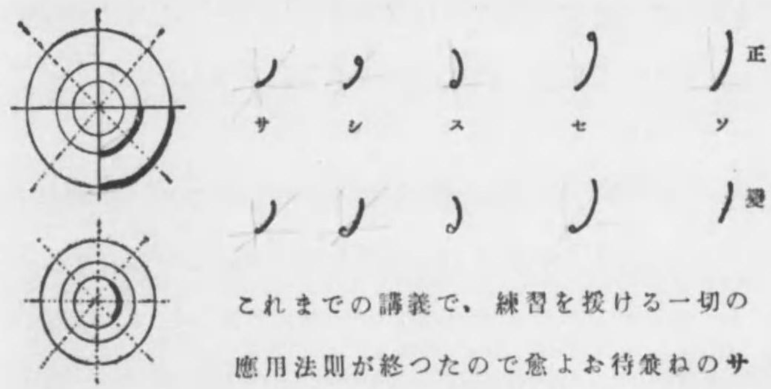

**本講の要點**

1、疊字標と運筆の關係

2、二音以上の重複語を疊字標で疊む



## 第八講　サ　行




これまでの講義で、練習を授ける一切の應用法則が終つたので愈よお待兼ねのサ行に進みますが、この行から又々驚天動地の能率を含んだ速記文字にお目にかゝり二度ビツクリ、速記文字とは最高能率の權化なり、と暫し呆然として練習を忘れぬやう御用心々々。

**出所と書き方**

上圖を御覽なさい。中圓斜曲線からサ、同縱曲線からスの基線を、大圓斜曲線からソを取ります。長さは云ふまでもなく中圓出身

のサシスは二分位、大圓出身のセソは四分位の長さで、サの線端を左内側にまるめ込んでシ、スは特別例外として縱曲線のスの基線々端を左内側にまるめ込んでつくり、シを二倍に書くとセ、サを二倍に書くとソと云ふやうに凡てカ行の筆法でやる、何も面倒はありませんネ。

カ行の處でも說明しましたが、サ行、カ行に限らず凡て速記文字は小圓か楕圓の結び目は線尾につくものです。どんな場合でも結びのある方から筆を起すことは絕對にやらぬことです。

**正變**

日本文字でサ行とタ行が一番多く使はれるので從つて運筆を最も圓滑にする必要があるので正則と變則二樣の書き方を定めてあります。正則の書き方は下から起筆する（スだけは上部から書く）ことゝなつて居ますが、(1) 漢字の運筆法で斯樣に左下から右上方に向つて書き上げるやうな文字は獨立したもので一つもなく一字の形をつくるために附けたりに書くものがある位ですから日本人にはこの運筆法は一寸熟練を要する。(2) またカ行に正則のサ行の綴りで連綴すると符號の境目が不明瞭となりカサと書いて一字のソとなると云ふ場合が澤山ある。(3) 日本文字で最も頻繁に使はれるのは右上方から



左下方に書き下げるものである。等々のことからして變則サ行を自由に使つてよいのです。

變則サ行は全部上から起筆するので日本文字の書法にピッタリとした筆勢ですから大いに働いてくれます。一つの文字に二種の書き方がある等と云ふ不審は問題にせずにその重寶さを先に味ひなさい。同じ符號で唯起筆點が違ふだけですから何の面倒もないのです。

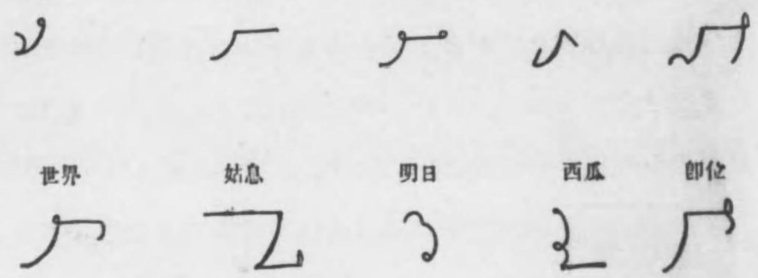
**綴り方**

正變の使ひ分けをどうするかと云ひますと、綴字の圓滑、角度、明瞭の三點に注意するとよく判りますが大體に於て、書き出しの最初にサ行文字が出たときは文句なしに正則を使ふとして、縱、或は斜線の文字に續いてサ行が出たときには正則を使ふ（但しエ、ハ行、バ行のやうな文字には變則サ行を連綴させる）。また横線、又はタ行變則のやうに下から起筆する文字に續くサ行は變則を使ふ。と云ふやうに符號同志がお互ひに上下入れ違ふやうに平均して一線上に中心を置くやうに書くことです。これはサ行のみでなくタ行の正變則の書き方から、凡ての速記文字連綴の骨子となるものです。

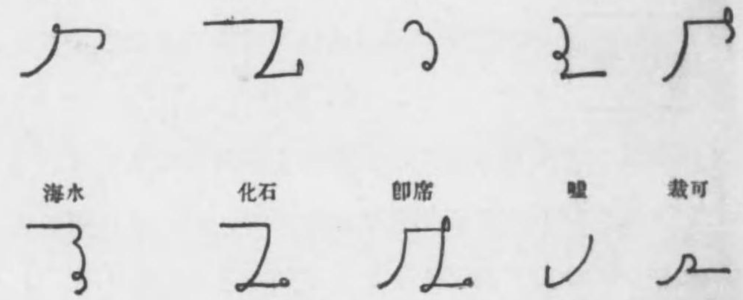
先づ綴字例で御研究下さい。どうです。大ぶ言葉が豐富に書けるやうになつたでせう。

## サ行綴字例

醫師　坂　四季　抑へ　淺草

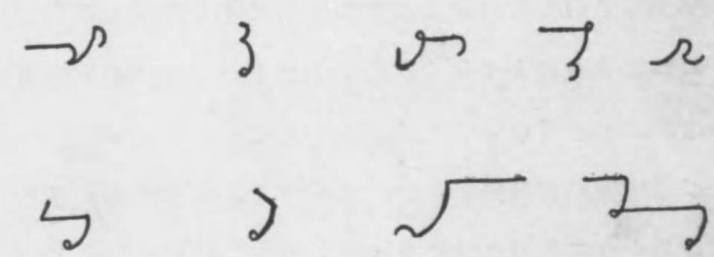


世界　姑息　明日　西瓜　卽位



海水　化石　卽席　嘘　裁可

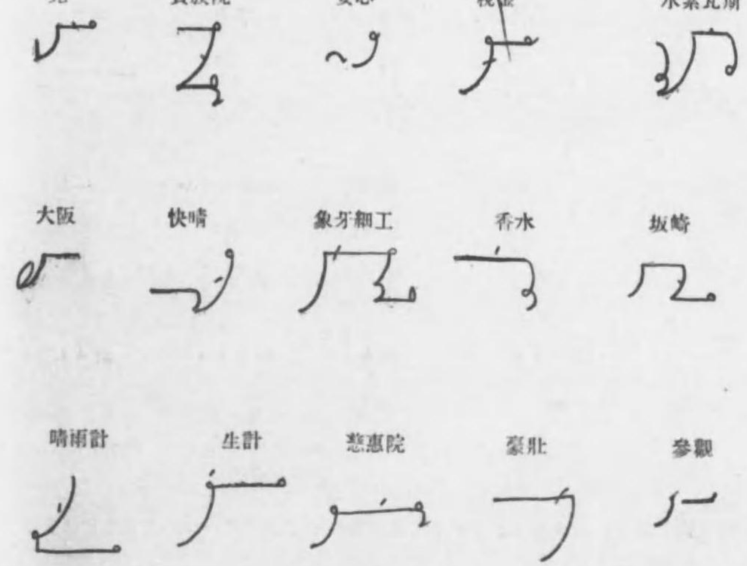
## 課　題





**鼻、濁、長音例**　サ行に於ける鼻音は頗る合理的でカ、コの鼻音を表はすに筆のままに横なぐりに力を抜いて線尾を輕くするとカン、コンになると同樣にサ、ソも一筆に書き飛ばしてよい。濁音や長音標も不要としても正確に打つ場合にはサ行は全部左側へつける。と云ふやうなことも說明するまでもないでせう。忘れたと思つたならばもう一度後戻りをして應用法則を呑み込んでからにして下さい。一步は一步より。この調子で……

兎　貴族院　安心　稅金　水素瓦斯



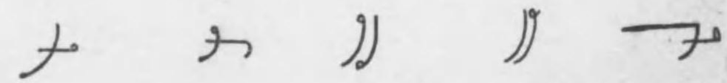
大阪　快晴　象牙細工　香水　坂崎

晴雨計　生計　慈惠院　豪壯　參觀

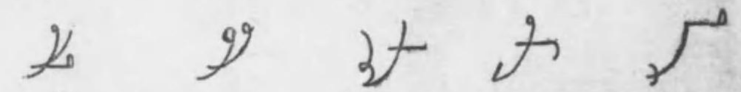
## 促音、複語例

速記、悉皆などの促音は斜線のソやシに、横直線のキ、カイが續く綴字は並行法ぢや勿論書けませんネ。そこで交叉法でこれを示す。また攝生、卒先など同じ方向にある文字同志のときは並行してこれを示すと云ふ原理も既に說明濟みですからこれ以上の說明は省きますが、この場合特殊のものとして攝生、卒先などは並行法でなくとも交叉法によつて表はしてもよいと云ふ便法があるのです。これは正變ともにその根本の傾斜度を失はぬ程度にお互ひに讓り合つて正則に變則を交叉するのです。

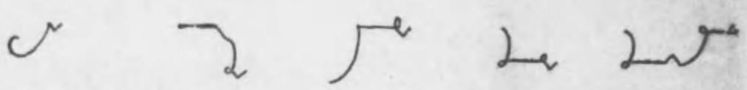
速記　悉皆　攝生　卒先　コサック



絕息　接戰　水族館　おせつかい　一足



態々　返すゝゝ　續々　好きゝゝ　清々しき



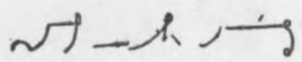
◉ 複語例中、清々しき、のやうに疊字標にすぐ續けて一つの文章を纏める點を御注意下さい。



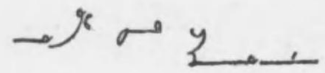
## 短文綴例

今まで習つた文字と、諸法則を應用するだけで案外澤山の文章を綴れます。先を急いで胴忘れするよりも足許を堅めることにして一つづゝ味つて下さい。

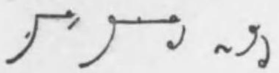
淺草觀世音へ　參詣す



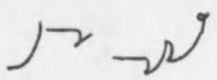
金錢は　多く　愛妻健康



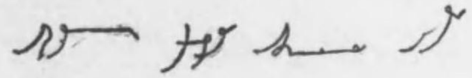
送金を制限し　安心す



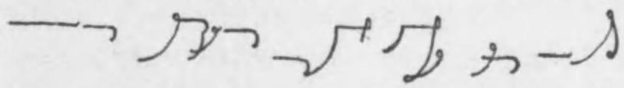
村會を　開催せん



西國寺侯へ　速記雜誌を　差上げん　贊成々々



今回　政界刷新會會則を　作製し　悉皆　完成す



**課題**

逆さ　朝顔　營繕　市會議員　遂行　債券
策士　粗惡　底意　小細工　安全　戰雲
謙遜　塵埃　神經　損金　可愛い子を椅子へ　小僧袈裟を裂く　醫學校生全員大磯海岸へ會合會議す如何　暗雲下界を掩ひ宛然想像外凄慘々々　こそゝゝ稼せぐ惡漢を警戒々々

**本講の要點**

1、正變兩線の書き方と連綴上の注意

2、濁、長、促、複語各法則の應用

3、文章に續くテニヲハは必ず前語に續けて書く。

4、サ行同志の促音は並行法によらず正變兩樣を交叉して示してもよい。

**練習法**

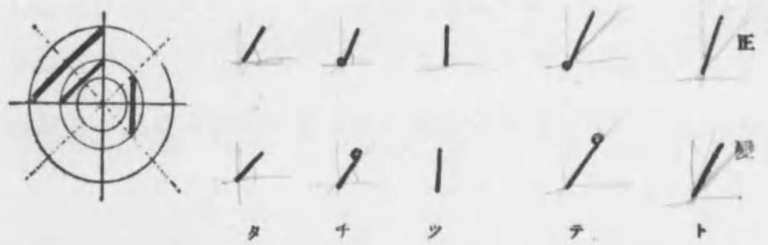
1、毎講の綴字例を見ながら何回でも書いて見る。そして符號と運筆の基礎が出來てから又綴字例を見ずに口で云ひながら正確に早く書く練習をする。

2、練習のときは送り假名として文章や言語の後につくヲ、ニ、ハ、ニ、テなどのテニヲハはローマ字式に離さずに前の綴りにすぐ續けて書くことを注意して短文綴例を讀んで下さい

3、苟も速記文字で書いたものは必ず反讀して下さい。速記文字の書きつ放しをやるとアトで讀めない樣になります。速記文字で早く書くのが目的でなく速記文字でこれを寫し、更に反讀して普通文字にするのが目的なのです。速記文字は唯その目的を達成する爲の手段に過ぎないのですから根本を誤らぬやう反讀の力を十分につけて速記文字に慣れて下さい。



# 第九講　タ　行




**出所と書き方**

だんゝゝ講義が進みまして、本日はタ行に就て研究致しませう、タ行の出所もサ行同樣中圓からタツを取り、タの線端を左內側にまるめて小圈をつけるとチになり、大圓からトを取りその線端に小圈がついてテ（丁度チの二倍の長さ）が出來る等この割出し法も十分お判りでせう。サ行のスと同樣タ行ではツが特殊なもので中圓縱線から生れて居ます。これでタ行五文字が生れた譯で何れも上から起筆します。このタ行もサ行同樣日本文字で最も多く使はれるため符號の出所も隨つて簡便な書き易い線を充ててあるのです。書き方も上方が

左下方に來る線で書き易いのですが、途中で力を拔きブルブルしながら書くとサ行の變則と間違ふから特に注意して書くこと、ツは中圓の出身ですから二分の縱線ですが最初の練習當時はこれを大きくテト同樣に四分の大きさに書いてハツキリさせると五割方生きます。他の文字はそんな便法は使ひません。この形を見ても判る通り速記文字はお互ひの線の長短や傾斜の程度で讀むのですからこれ等に注意すると云ふことはどんな場合でも忘れぬことです。

**變則**　今までの書き方は正則のタ行ですがサ行同樣運筆の輕快を增進させるために變則の書き方がある。變則タ行はサ行正則を書く筆法でチトの小圈も隨つて線尾となつて居る上端につく譯で何の變哲さもない。たゞツに限つて正變共に上部からばかり起筆すると云ふだけです。併しこゝに一つ便法があります。正變兩樣のタ行の角度は割出しの原則によると四十五度が普通です。だが筆勢を顧慮して下から起筆する變則のタチテトだけは幾分傾斜をゆるくして樂に書き三十度位で適當でせう。

論より證據早速綴字例をお目にかけませう。この中でも特に手足、卓越のア、クの字形に御注意の上その應用法を味つて戴きます。



## タ行綴字例

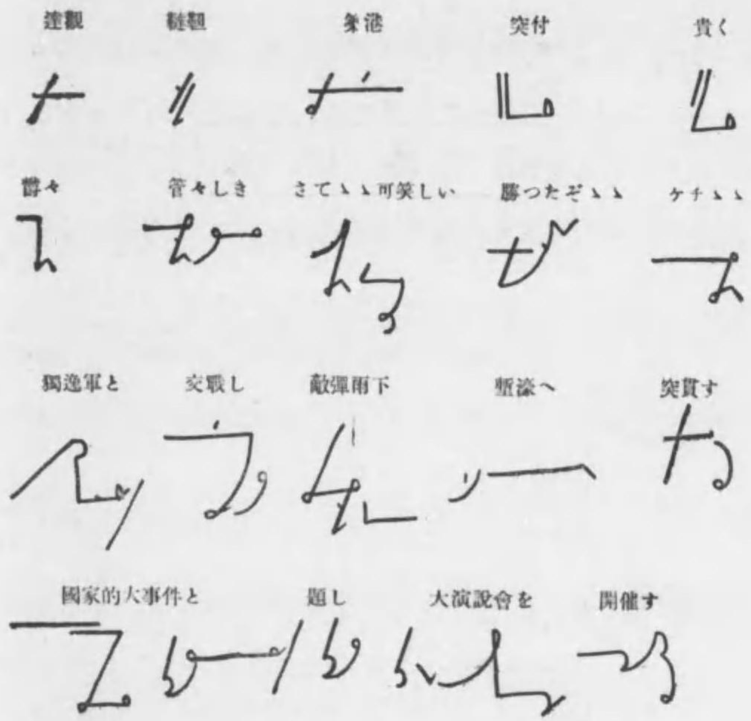
**綴り方**

前頁で綴字例を見たり、既にサ行での説明をお済みになつた諸君はタ行の正變使ひ分けも大體見當ついたでせうが、判りよくしますと、上方へ向つてゐる文字、或は横線文字に續くときには正則タ行をその反對に下方へ向く文字に續くときには變則タ行を使ふと云ふやうにして、綴文の中心線が平均して美術的に書けるやうに正變の使ひ分けを巧みにやつて、文字連綴の圓滑と、角度の明瞭、反譯の敏捷を圖ると云ふ三點にいつも注意して書くことが肝要です。

**鼻、濁、長、促、複音例**

カ行サ行で習つた通りです。タトの鼻音は思ひ切つて一線に書き飛ばす。促音もタ行同志では並行法、又は正變の使ひ分けで交叉法でも書けます、カ行ア行ワ行とタ行の促音は文句なしに交叉法、サ行とタ行の促音は交叉、並行二法ともに使へるでせう。濁音や長音はサ行同樣左側に加標、加點する等々珍らしいことはありませんよ。たゞ濁音で注意するのは速記式假名遣のところで御承知のやうに、ジヂ、ズヅはどの文字を使つてもよいのですから前語との連綴が圓滑正確に行くやうに心がけて自由に使つて下さい。又一定するのも面白いでせう。






## 課　題

俗事を達觀し專心研鑽す　　嶄然新機軸を出し大成功

乾坤一擲大事を遂行せん　　蠶を飼ひ生糸を製造した

驅逐艦は潛水艇を曳航す　　東海道をドンドン疾走し

**本講の要點**

1、正變の書き方と角度の相違

2、正變兩線の使ひ分けと綴り方

3、濁音のヂジ、ヅズの區別

# 第十講　ナ　行

ホヽ大ぶ書けるやうになりましたネ。なかゝゝ出來榮がよいですが、よく見ると

1、中風病みのやうな文字が澤山ありますネ、手の練習が肝腎ですよ。

2、慶應、經濟などに長音を利用せずに誤丁寧にもケイなどゝ文字で書いたり、渡歐などにア行長音のオーを使つてゐますネ。

こんな間違がありますよ。諸法則をもう一度讀み返して下さい。それが終つたならばナ行に進みませう。

**出所と書き方**

ナ行は横曲線で、中圓からナが生れその線端に小圓をつけてニ、それが橢圓形になつてヌとなり、大圓からノを取り、それに小圓がついてネとなりますが、屢々云ふ通りナの倍がノ、ニの倍がネで、ヌだけはカ行のクと同じく例外の橢圓がつくのです。符號の大きさも大圓出身のネノは四分、中圓出身のナニヌは二分と今迄通りです。早速綴字例をお目通りさせませう



## ナ行綴字例

## 課　題

國家の大難事に際會して。殘念だが立退う。絹糸は値が高いネ。憎い仕打を泣き明かす。姉は長崎弟は大阪。

綴字例もよく見るとカ行ナ行のやうな横線に對しては變則のサ行がよく働き、タ行は正則の連綴が頗る具合よいことなど判るでせう。

**鼻、長、促、複音例**　之等の書き方も改めて申すまでもなくナの末尾の力を抜いてナンにする等、促音や複語の筆法もナン年たつても前講通りなンです

**課題**　汝は今次の支那との戰爭を如何に觀じた。お互ひは自己の責任を感じ大いに活動を爲せ。議會の會期は何日に決定したか、人事更迭の噂に仕事が出來ぬ。

**本講の要點**　1、出所と長短、

2、カ行を曲げて書くとナ行に、ナ行を直線に書くとカ行に間違ふ、兩方共に注意する。



# 第十一講　ハ　行

**出所と書き方**　ハ行は出所もサ行の左側をその儘に持つて來たもので、凡ての文字がサ行と反對になつて居るのですから別段説明する處もないやうで、フはスと同樣の縱曲線で上から起筆し他のハヒヘホも同樣上から右下方に書くのです。文字の長短等も既に云ふ迄もなく御承知でせう。ところが今まで私共の書き慣れて居た日本文字で、このやうに左上から起筆して右下に伸びる線は少ないのでどうも書き難いやうに思はれますが、このハ行もカサタの三行に次で多く使はれる文字であるから油斷せずに正確に書けるやうやつて下さい

**綴り方**　ハ行の連綴で特殊なものは、ノヨの二文字とサ行本則の連綴の場合です。例へば破産

や硼酸の連綴が餘り圓滑すぎて境界の判斷に苦しみ反譯出來ないと思ふでせう。これはたゞ **ハーサソ　ホーサソ** の連綴にだけ感ずるもので他の結び目のついてゐる文字同志の連綴には格別影響しません。それから面白いのに、話ハナシを正則のシにして一筆に書くと**ホセ**になるやうなこともあります。勿論**ホセ**と書いても特殊な字型が出るためと、前後の連絡からこれは話である、と見當はつけられるでせうが、之れ等の文字を最も安心して書くには**サ**行の正變を使ひ分けることによつて忽ち解決することです。しかし大圓同志の**ホソ**の連綴は**ソ**を正則に書いてもよく判りますネ。また話のやうな場合**ホセ**となるのを防ぐため**ハ**、**ナ**、**シ**、とその境目に幾分の筆のたる味をつけるとか、**ハナシ**の**シ**を變則に書くのもよいでせう。兎に角この**ハ**行は**フ**を除いた以外の文字の角度が日本人離れしてゐるため角度には特に念を入れて**フタヘ**（二重）の**フ**の角度を緩るくして**ヒトヘ**（一重）にせぬやうに偏へに願上ます。　また**ハ**行と**ナ**行の連綴も十分注意して下さい。

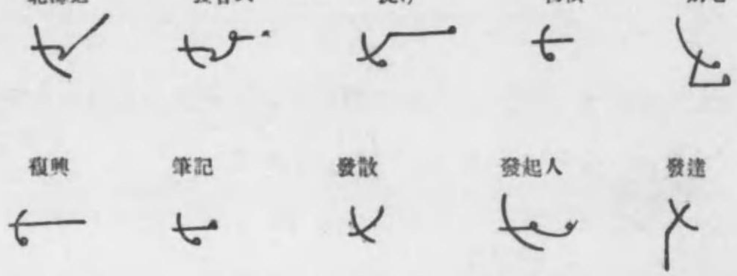
次に發音で**ハ**と書いて**ワ**と發音される依、庭、俄、河、爲替等の**ハ**も速記式假名遣で**ワ**とすること。顔の**ホ**、縫取りの**ヒ**も申す迄もなく**オ**。**イ**を使ふことですネ。



## ハ行綴字例

## 促音 疊字 其他の綴例

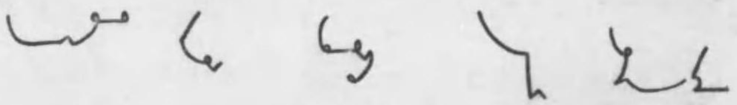
北海道　發會式　提げ　物價　別宅



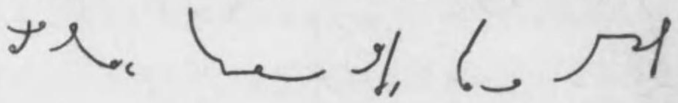
復興　筆記　發散　發起人　發達



抄々しく　度々　福々し　ボツ〳〵　久々の對策



日支事變は　貿易の　進展を　多分に　阻害した



**課題**　僕は支那人と船に乘つて平家の遺跡を。豐後沖には鯖が多い。兵兒帶と袴纏を買つた。徘徊、下手　乾鰯　臍緒　福引　手引　白布　番頭　放念

**本講の要點**

1、ハ行とサ行の綴り方、

2、同ナ行との綴り方、

3、ハ行の假名遣、



## 第十二講　パ　行（半濁音）

ハ行に引續いてその形の似てゐるパピプペポをやりませう。これは半濁音と云ひまして日本固有の國語ではよく合羽、立派、突飛、發布、一片、鐵砲、洋盃、喞筒などのやうに語音が勢ひよく續いて出るものを云ふのです。それですからこの音の連綴されるのは大てい促音が伴ふもので、それ以外には前語の尾音を受けた時とか、或は語尾に鼻音を有する場合が多く、さもなくば純然たる外國語から來るのです。外國語に半濁音の多いことは云ふまでもなく、殊に今日に於きましてはコツプ、ポンプ、ペンなど日本化したものが多いのですから、この半濁音の各文字も油斷なく活用出來るやう運筆の妙を得て置くことです。

**出所と書き方**

このパ行は丁度タ行の反對線で中圓からパを、大圓からポを取り、パに小圓をつけてピ、パにク、ヌの楕圓をつけてプ、ピを二倍にしてペ、パを二倍にしてポとなります。何れも左上方から起筆し右下方へ來る斜直線であります。ハ行同樣この文字の運筆も手をよく利かせるやうにしないと一寸書き惡い線であります、併し別な秘法をお知らせしますから巧みに利用して見て下さい、案外面白いものです。

それはパ行を或る場合にはハ行その儘に使ふことです。例へば一般を**イツハン**、憲法を**ケンホー**、發奮を**ハツフン**とするのですが、大體これで間違ひなく反譯は出來ます。だが特殊な言葉に對しては矢張りパ行文字を以て現はす必要あることは勿論でありますから練習は疎かに出來ないこと等も頭のよい諸君にはよくお判りでせうネ。尙パ行の綴りに當つてもハ行同樣**カ**、**サ**、**ナ**の各行に對しては運筆上一段と研究する點あることも注意して戴きます。文句は拔きにして書いて見ませう。如何です。とに角、五十音の基礎も今一息と云ふ處です。この後のマ行、ヤ行、ラ行の三つで完成するのですから最後の褌をしめ直して氣分一新、一擧に我がものとするやう頑張つて戴きませう。



## パ行綴字例

**課題**

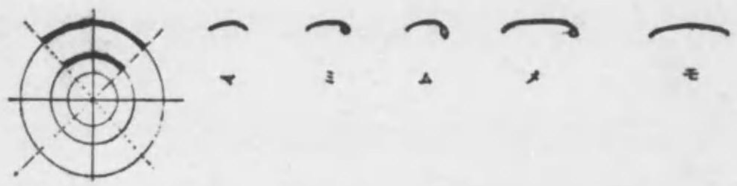
接吻　關白　佛法　一杯　說破　突發　實否
パイプ　ペン畫　殘品　活版　失敗　參拜

日本兵に發砲した支那馬賊を軍法會議に。船舶不足を告ぐ內事をスツパ拔き罰俸を食ふ。不作で一般は飢に泣く。

**本講の要點**

1、半濁音の構成　2、ハ行をその儘利用する簡便法　3、カサナ三行に對する運筆上の注意。

# 第十三講　マ　行




マゴついてゐる間にマ行に進みますよ。五十音もマ、ヤラの三行で全部完成するのでありますから緊褌一番、又は猿股の紐をグツトしめて一段と油をかけて下さい。原理は簡單です。マ行何ものぞ——卽ちナ行をヒツクリ返したものがそれです。今更夫婦喧嘩ぢやあるまいし長さをどうの斯うのと云つて居られないでせう。そこでナ行とマ行は形が上向、下向の相違だけでうつかりしてゐるといろゝゝの悲喜劇を綴り出します。マを書くつもりでナを書き反譯のときには平氣で符號その儘を讀んでゆくため舞妓がナイコ、マナイタがナマイタに變じたり主さまがムシサマになると調子、諸君よ、眼の錯覺を起さぬやう、色眼を使はぬやう特に老婆心までに注意を促して直に綴字を披露しませう。



## 書き方

舞妓、見舞などのやうにマ、イの連綴は既に各所で講義した通り滑かに一氣に書き、マと綴つて筆を止めそしてイを綴ると云ふやうなことを決してやらぬやう、無筆の綴りで、マの小圈の處からヒの綴りをよく注意して下さい。斯うした生きた例はいくらも應用法はあるものですから——しかし普通にヒを右に書いてもよいです。模索は變則のサがよし、マ行サ行の連綴は變則サ行が書き易く正確に書ける、前髪の連綴をよく注意すること。

### マ行綴例

## 鼻音、促音、綴字例

門下　民家　眞赤　眞先　コミック

眞直　密接　目下　全く　最も

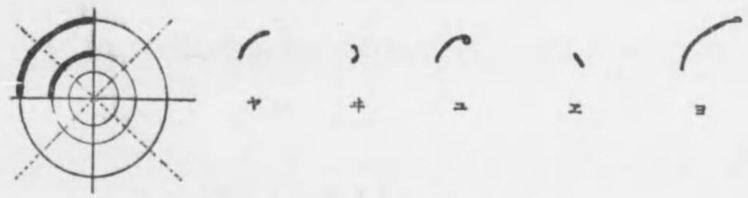
木琴　交々　又々　もしゝゝ　皆々

**課題**　花見姿の舞妓さんに　隨分君は負惜みね　大きな薩摩藩だ、　玉突は問題外と　昔の人は大てい無筆だ　物見台は實に涼しい　毎日毎晩學校に　民間飛行

**本讀の要點**　1、ナ行とマ行の錯覺を起さぬやう明瞭に記憶すること、　2、マ行とエの連綴、サ行の連綴に對する注意。



## 第十四講　ヤ　行



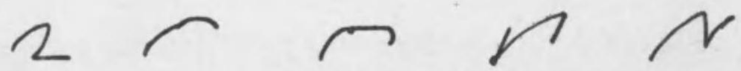

今日はヤ行の講義に入ります。嬉しいことにこのヤ行はヤキユエヨ五音中、キエの文字はア行のイ、エと同音であるため、この二音は結局不用となり、ヤユヨの三音だけ學ぶとよいのです。一寸負擔が輕くなつて安心するでせうが油斷大敵、同音だからとて反譯するときはエとエを區別して書くことを忘れて赤面せぬやう——

**出所と書き方**　ヤ行の割り出しは、大圓からヨ、中圓からヤを取り、ヤに小圏をつけてユとなります。長さは出所の示す通りヤユは二分、ヨは四分位の長さを標準とする。それからユの小圏を見て既に頭のよい諸君はハゝアと判つたでせうが、何回も云ふ通り、速記文字はその行の小圏のついた方が線尾であり筆の終點

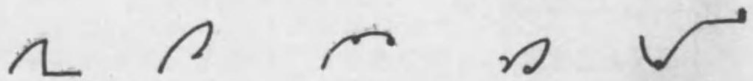
となつて居るのですから、このヤ行三文字は云ふ迄もなく全部左下から起筆し右上方に圓く書き上げると云ふ珍らしい筆法なのです。ユは小圏があるから下から書き、ヤヨは小圏がないのだから上から書いた方が書きよいから、とか上下どつちにしても同形だから、とか自分勝手の理窟をつけて出鱈目な書き方をするのは斷じて許しません。ヤ行三文字は絶對的に下から書くものと御承知下さい。

## ヤ行綴字例

八坂　山　愉快　千代田　四谷



八束　豫算　弓　卑し　比翼

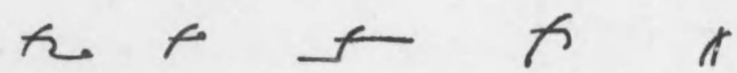


勸誘　氣早　長屋　夢　隼人

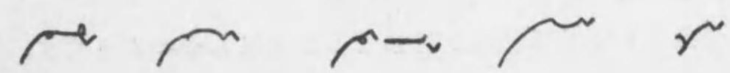
**綴り方**

◇八坂のやうにヤ行に續けるサ行は凡て變則を用ゐる。◇千代田のチヨの綴りでチの小圏の形がヨに續く場合の變化を見ること。◇隼人、ヤ行にタ行の續くときは本則のタ行を使ふ。

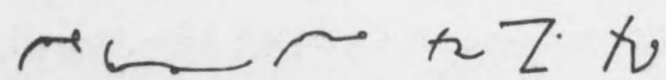
厄介人　躍起　火薬庫　欲界　遣つた



行々　山々　悠々閑々　夜なゝゝ　鐵々



行方　不明の　山木　厄介な　ことが　突發し



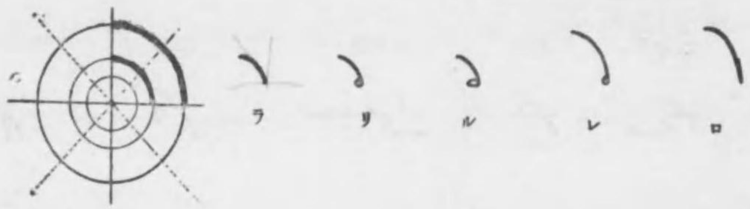
**課題**

愉快な散歩　夜店を素見かす　蒲燒が食ひたい　都の冬景色を見物　夜間野外飛行は危ぶない　洋館内に洋服の男　洋行した勇次さん　大藪小藪に怪物が

**本講の要點**

1、ヤ行のイ、ェ省略と反譯時の注意。
2、全部下方から起筆すること。

# 第十五講　ラ　行



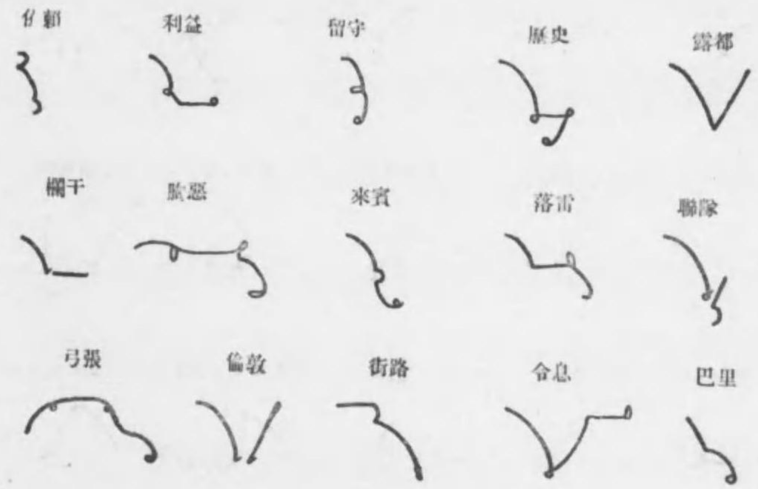

愈よ五十音最後のラ行がこゝに登場しつゝあります。諸君はその努力によつて我が熊崎式速記術の五十音全部を征服するの榮冠を有すると云ふことは大なる喜びでありまして、諸君のために衷心からお喜びを申し上げて、初等篇終了の、晴れやかな誇りある喇叭を空高く吹くべきその準備として早速本講に取りかゝりませう。

**出所と書き方**

ラ行の割出しは丁度前講ヤ行の反對側であります。中圓からラ、大圓からロを取り、ラの線端に小圏をつけてリ、ラの線端にク、ヌ、ムにあるやうな楕圓形を横につけたものがル、リを二倍にしてレ、ラを二倍にしてロとなり全部上方から下方へ圓く書き下げる文字です。特殊なものとしてはルだけですが、書き方に無理はないのですから完全にこなし得るでせう。



## ラ行綴字例




**綴り方**

△依頼の綴りはラの線の圓味を利用して一筆に曲げ込みラとイを別々に書くやうな手綴いことは禁物、マ行のマイコ等の例を參照。△ルとリの書き分けをしつかりやる。ルの横の楕圓を幾分思ひ切つて大きい位にするのも一法です。△胸懐のネワの接續に注意・ネの結びの筆力をすぐワに續ける。つまりワの上半分書いて濟ますことにする。

## 促音、疊字綴例

**課題**　職色　黒髪　草枕　紫　卑劣　落魄　無類　耳寄り　惡口　法律　官吏は威張りたがる　櫻の花も咲き揃ふ　煉瓦と瓦をつくる　遙かに洛陽を望む

**本講の要點**　1、ルの横形の楕圓　2、ラとロとイの接續點　3、ラ、ロとイの接續等には一段と運筆の研究を要する處。



## 初等篇を終へて

本邦速記界の花形であり、日本語速記にその符號の科學的根據を有つ我が熊崎式の五十音も諸君の努力と、點滴石穿つの熱心によつて完全に征服されたのであります。而も五十音ばかりでなく、それに伴つて今後速記實習の基礎ともなる濁音、濁長音、長音、促音、鼻音、疊字法の全部も終つたのであります。考へると、今まで諸君とアカの他人であつたア行やカ行の一つ々々から始めたものが積り積つて熊崎式速記術の基本五十音と、基礎法則を終了したのですからその努力は十分に現はれてゐるのであります。諸君は、この熱心さと努力を以つて更に中等篇に於て一層の妙法を學び、萬人未踏の寶庫を開く勇者の一人として輝く門途に上らんとしてゐるのでありますが、その前に今一度諸君が進んで來た途を振り返つて冷靜に考へて下さい。正しい途を進んで來たか、どうか、學びの跡をハツキリと注目して下さい。何か忘れものがないか、曖昧な點を押し隱してゴマ化し、良心に恥るところがないかを——

1、速記上の假名遣は判りましたか。

2、五十音と云ふても四十文字ですが、完全に圓滑な各行との連綴が出來ますか。半濁音は如何です。また誤つた符號で書いてゐるやうなことはないですか。

3、サ、タ行のやうに正變二樣の書き方あるものゝ使ひ分は如何です。

4、ア行長音をカ行以下の連綴に際して第二、第三音目に書くことはないですか。

5、濁音符と長音符を混同して使つて居ませんか。

6、運筆の調子の惡るい綴りをその儘にせず書き惡るいもの程五六十回連續して書きこなして居りますか。

7、練習課題や綴字例を有効に利用して居りますか。

8、書いた速記文字は必ず反讀して居りますか、符號の書き放しをやつて居ませんか。

若しこの中の一項目にでも心當りのある人は、ゆつくり納得されぬ處だけを十分に研究してから前へ進んで下さい今日までのところで (1) 四十六字の基本符號、(2) 半濁音、(3) 長音、(4) ア行長音、(5) 濁音、濁長音、(6) 促音、(7) 鼻音、(8) 疊字法の八項目だけであります。



この八項目を利用しても相當の文字が綴れるのですから諸君は、隨分いろゝゝのことを習つたナア、と思はれるでせうが事實はタツタ八項目に過ぎないのであります。

しかしながらこの八項目の應用は實に無限とも云ふべきで、そこに速記術の眞價を極度にまで發揮させることの出來るものが含まれてゐることを示してゐるのです。ところが熊崎式の眞價は、今までの處その名の通り初等の部に屬する八項目の講義でありましたが續篇の中等篇に及んで一段と光彩を放ち、最後の高等篇に至つて絶頂に達するものでありますが、この中等篇の後半から、高等篇には總ての速記秘法を惜げもなく、直接教授も及ばぬ妙法を諸君に公開することに致します。

第二の生命を得る諸君の準備は出來ましたか。いざ引續いて次の寶庫に突進しませう。

### ◇速記金言

◇熱心なる練習は上達の基なり、上達意の如くならざるは未だ熱心の足らざるを意味す。

# 科外講話

1、學習に就ての覺悟
2、速記の用具
3、初學者の練習法十則

## 學習に就ての覺悟

### 速記術は何故普及しなかつたか

速記術は各人にとつて必要缺くべからざるものであり、これを知らなければ時代に遲れ、世の文化に順應して行けない。また實生活に於ても同輩に優れた實力を有つことが出來ない。進んで新就職線への勇者として濶歩することが出來ない。と申しても過言ではありませんが、このやうに必要な萬人必須の學術が何故に今日外國のやうに廣く用ひられて居らぬかと云ふと、その原因は多々あるとしても一は斯道の先輩が異口同音に "速記は入り易く成り難し" "速記は至難なる學術なり" と云ふ謬見を唱へて一般人の速記



に對する觀念を脅かし、速記の大衆化と、新人登用の道を塞いで居た觀のあることや、第二は、從來の速記術そのものがまだ不完全の域を脱せず一千から二千に及ぶ符號と、複雜極まる法則などの記憶だけでも容易でなかつたこと、第三にはこれらの原因からして一般の人が、速記を以て專門家の職業のやうに誤解し、これを難物視して一向に手を染めやうとしなかつたこと、等に起因するものと考へられるのであります。

この根本を考へると、速記術そのものが不完全であるためにその普及を阻止して居たことになるのでありますが、事實に於てこれは解決されつゝあるのであります。現在、學校教育で授けられる漢字數は四千餘でありますが、それに匹敵するやうな速記符號を短時日を以てどうして會得するか、またそれにも增して複雜なる法則を一瞬の間に應用するまでには如何なる苦心を嘗めなければならぬか。先輩速記者の多くはこれに堪へて今日の基礎をつくり上げたのであるから、その能力と努力の點に至つては驚くべきものがあると思ふのであります。斯うした人々から語られる "速記は入り易く成り難し" の言も亦當然と云はなければならないのでせう。

## 速記術は誰にでも出來る

しかし、時代は何時までも文化の發展を阻むやうな重大な不合理をその儘にはして置きません。百九十字の符號と筆流は日本語式に幾何學的形態を有つ我が熊崎式によつて從來の速記術に對する觀念は一掃され、新人の登龍門は開け、簡易國字熱の勃興は事實となつて私共の眼前に展開されて居るのであります。これを更に事實の方面から考へて見るとどうです。一線に等しいやうな符號百九十字の記憶は常識のあるものとして些の苦痛も感じないものでせう。假に一ケ月間に習ふとしても、一日六字か七字と、法則二三づゝの割當で完全に會得されるでせう。斯樣な事實から速記の學習には、學力の資格條件は必要としない。何人にも簡單に習得出來ると斷言して憚らないのであります。

## 新日本國字としての速記

即ち速記は、高等の學問がなくとも、普通教育と常識のある人には容易に學ぶことが出來、そしてそれを容易に利用することが出來るのです。それですから社會の總ての人がそれゝゝ自分の知識の程度に應じて種々の機會にこれを



用ひればよろしい。その職業的と否とに論なく、小學生は小學生の知識程度に、中等學生は中等學生の學力程度に、或は軍人、官吏、會社員、商人、店員など皆それゝゝ自分の學力教養の程度に實生活に相應しい能率的な補助文字としての速記の利用が出來るのであります。これ等の點から考へると複雜な漢字の補助文字として新國字としての速記術の効用も亦特殊な重要性を含むものであることが判るでせう。外國ではこれが實際に行はれて居るのであつて、速記術はあらゆる方面に普及し、小學校の正科、或は中等學校の科外講座として速記術があり、高等の速記學校も設立されて居る程でありますから總ての人が速記術を處世上必須の學科として居るため大ていの家庭ではその子女には必ず速記を教へて、生活の一助とし或は各自の仕事に有効に利用させて居るのであります。

## 眞劍なる學習者に與ふ

しかし玆に注意しなければならないことは、速記術の普及は大いに望む處でありますが、今日の時世からして今本講義によつて速記を習得しやうとする諸君は單なる趣味や、或は一時の氣まぐれから學ぶものではなく、尠くとも他人

に率先して特殊技術を取入れる、それを自分の仕事に應用して、地位の向上、文化の貢献に資せんとする進取的な堅實性を多分に有つて居られる人々であり、更に進んで、一層の需要と、優れた速記者を待望して居る今後の就職戰線を洞察して、それの登龍門に勝利と榮冠を獲得しやうとする人々であつて、堅忍不拔、燃ゆるやうな前途の希望を速記術によつて達成しやうとする篤學の士であることを疑はぬのであります。

斯うした人々は本講座の中堅でありますから特に一言致しますが、御承知の如く、今日學科で或る技能を習得するにしても學資の不要な、そして毎日僅かの餘暇の練習によつて求められると云ふ虫のよいものがあり得ることだらうか。ありとせば恐らく速記術以外にあるまいと考へるのです。しかし、これによつて專門速記者として活動し或は完全な速記で自分の役に立てると云ふには決して一時の氣まぐれや、間に合せの勉强では目的を達することは至難なのであります。速記文字に對しても相當の練習が必要であり社會に出現する種々の問題に就ても十分それを理解するだけの豐富な常識が必要となつて來ますが、これ等は速記練習上僅かの注意によつて或る程度までの涵養は出來る便宜



もありますが大體に於て毎日の新聞紙に現はれる各種の問題を理解し、それと同程度の國語の力があれば申し分ない處でせう。

## 修業年限はどの位か

特に技術である以上その練習は一番大切なことであつてその修業年限をいま此處で斷言出來ませんが、素養の程度や熱心の度合、練習の方法等によつて決定されるものとして、大體に於て進みの早いものは五六ヶ月で速度の緩るい講演や、學校の講義など書ける人もありますが、普通は毎日二時間乃至三時間の練習で約一ヶ年で實用に供され、更に實地の練習を經て二ヶ年位の學習によつて略々一人前の速記者たる基礎が出來たと云ふべきです。これを他の學術技藝に比較して實地の用に供される期間と、習得時間の自由さから等の點からして最も特色あるものと云へるでせう。

ところが今までの多くの例からすると、初めの間は異常な熱心と興味を有つて勉强にかゝる。そして全符號と、應用法則を終りアトは技能の練習だけで、速度が出るとものになると云ふ程に基礎の出來た人—— 開講三ヶ月目位に當る—— でありながら、毎日々々蚯蚓のやうな符號を弄する

に嫌氣がさすのと、進境が遲々として眼に見へぬのに興味を失つて中途で挫折し、專門速記者として起つ意志は素より、速記に對して何の愛着も感ぜぬと云ふ人が頗る多いのであります。よく考へて見ると玆に優勝劣敗の因があるのですから、他人がさう云ふ事情にあり、自分も同樣であるとせば、何ツ我こそこれを完成し、彼等移り氣の多い薄志弱行の輩を戒めてやらうと云ふ意氣と忍耐を以て習學されるやう“己れの苦しい時は他も亦苦し”の言葉を忘れず、本講座の敎へるところによつて最後の勝利者となられんことを祈つて居ります。

## 目標とする速度は？

いま大體の修業年限を、毎日二三時間宛正規の練習をして約二ヶ年で一人前の速記者となれる、と云ひましたが一つの技術である以上その速度に一定の標準が出て來るのは當然であるのに考へつく譯です。そしてその標準速度に達せぬものは四年五年の修學をするとも、ものにならぬ人があるのに、二ヶ年は愚か、一年或は一年半の習學で標準速度に達する人もあるでせう。玆に於て腦力の働き、年齡等の關係から起る相違等を見のがす譯にゆかぬのであります



が、速記術も指先の働きによる一つの技術ですから、その訓練の出來る十六七才から廿三四才が理想的であり、頭腦の働きも遲鈍のものよりは敏速に働くものゝ方がよいことは判り切つたことでせう。これらの原因で修業年限に著しい間隔が生ずるものゝその目標とする處は、我々人間の普通の發音程度に伴ふて速記が出來ればよい譯で、これは技術の問題とする。一方その速記文を反譯（速記符號で書いたものを普通文字に書き直す）する場合、その內容を理解して居なければ完全な速記は到底出來るものではないのでたゞその發音を速記するばかりでは反譯は出來ない。それですから速記者の頭腦は或る場合に技術以上に大切な働きをするもので、斯うした方面から考へると頭腦も相當に熟した三十才以上の初學者としても十分侮れぬ條件が出來てゐることが判るのです。

こゝでその中心となるべき人間の發音速度はどうか、と云ふと、大體に於て平均速度を見ると普通の演說、講話で十分間の發音を漢字假名交り文に直して、遲いもので千七八百字內外、早いもので三千二三百字であるから平均速度は十分間に二千五百字內外と見て差支ないでせう。そこでこの平均數十分間に二千五六百字を速記し、誤りなく反譯

する技倆を有つやうになると先づ大ていの講演、演說の速記が出來ると云ふべきで、こゝに初めて一人前の專門速記者と云ふことが出來るのですが、今日のスピート時代に於てあらゆるものゝ時間の短縮から演者の口調も一般に早口になつたやうな現在では尠くとも十分間に三千二三百字を書き得るやうに一層の努力をしなければならないでせう。

次に速記文の反譯時間でありますが、これも演者の發音程度、速記者の技術の巧拙、その知識の深淺、淨書の遲速等によつて一概に云はれませんが、大てい速記時間の六倍から十倍位の標準ですから、十分間速記したものは約一時間から一時間半を反譯に要し、一時間速記したものを反譯するには六時間から十時間を要することになるのであります。

諸君も第一期目標は二千五百、第二期目標は三千二三百內外として、一歩々々堅實の速度を以て進んで下さい。決して焦らず、練習を怠らず、或は練習法を誤つてゐることを知らずに、僅か三四ヶ月や半年で旣に百里の行程中、九十里を踏破したやうな自惚れを起さずに、悠々迫らぬ態度で、徐ろに願を追ひ不撓不屈の精神を以てこの最後の目標に邁進するやうくれゝゝも希望するものであります。



## 速記の用具

速記の用具は紙と鉛筆です。これさへあればモダン武者修業も出來やうと云ふもの、だが刀も赤錆では丹五郎にも侮辱されると同樣、速記の用具としての紙や鉛筆に就ても一通りの注意が必要となつて來るのであります。

**紙**

は理想的なのは駿河半紙ですが或る地方では手に入らぬ場合もあります。その代用品として上質の半紙で餘り薄くないものを代用し、四十枚位を一帖として二つ折の中央を綴ぢて使ひます。丁度半紙半枚大になつたものを横にして机上に置き、左手の指先で用紙の左端を輕く摘み、右手で速記しながらその紙面に空間のなくなると共に左手で直に前方に紙を飛ばして次の白紙面を出し右手はそれに續けて速記して行く。左手はこの用紙の左端を摘み次の準備をすると云ふ順序で進みます。これは實地速記の場合ですが初步の練習時代には贅澤を云はずに用紙はザラ半紙、或は安いロール半紙でも結構でせう。たゞ紙に就て考へることは、表面の粗い紙は鉛筆を早く磨損させ、運筆に

幾分濃味を與へて抵抗を覺へさせる。そして鉛筆が減ると文字が大きくなり、それに伴つて手指の運動も大きくなるため早く疲勞を感ずることになり、また光澤あるツルゝした紙は鉛筆が走り過ぎて符號の長短角度を失ひ易く、光澤の强いものは光線の反射で眼を疲勞させるとか、紙の薄い弱いものは鉛筆で破り、またはその筆跡が次の用紙に殘つたりして非常に不快であるが、斯うした點を考慮してよく適合した用紙を用ひ慣れることもよいでせう。

また實地速記の場合は、どんな處に於ても手許は明るくし、光線は左方から取り手許に陰影を殘し、これに氣を取られる等のことのないやう、會場の照明と速記者席は十分考慮して失敗のないやうにし、練習的な場合には會衆に混つて膝の上に堅い圖板のやうなものを載せてその上で書くと云ふやうにするのもよいでせう。

**鉛筆**　は柔か過ぎるものは磨滅が早く、交換に忙しく貴重な時間を費し、さりとて硬いものは折れたり減つたりする心配は幾分ないとしても墨色が薄く力を入れて書かぬと滿足されぬやうになるので手指を輕く連續運動させる速記には不向となつて來ます。こゝで速記用鉛筆として手頃なものは二Bから四Bもので初步時代は二



Bあたりがよいでせう。シャープペンシルもよいでせうがうつかりすると芯が硬くて困るのがあります。鉛筆の芯は三分でも四分でも長い程よいと云つて出すのは禁物で、多少勇敢に書いても折れない程度で二分位の長さとし、尖端を細く削る。持ち方も普通持ち慣れたやうに拇指、人差指、中指の三指で、芯から一寸位の上部を握るのが疲勞を覺へず長く書けます。

それから惡い癖で鉛筆の芯を舐めなければ書く氣になれない、と云ふ人も澤山ありますが、練習の時も見て居られぬ程貴重な時間を費しては無意識に舐めるのです。斯う云ふやうな人は實際に速記するときはどうだらうか、と他人事ながら心配で堪りません。若しそんな癖のある人は一日も早く舐めることを止めて下さい。

この外、注意すべきことでは、萬年筆を以ても自由に書けるやうに手を慣らして置くことも必要でせう。また實地速記の場合に於ける机と椅子の高さ、自分の身長などのことも疎かに出來ぬ問題でせう。机が高く椅子の低いときに兩手が宙ブラリンとなつてすぐ疲勞し到底續くものではないのです。それから耳の問題等もありますから、練習當時から注意して基礎を堅めるやうにする事等も必要なのです。

## 初學者の練習法十則

再々云ふやうに、速記も一つの技術である以上これを實用に供するまでには相當の練習をしなければならないのは當然のことで、全くの新しい符號を自由に使つて、立板に水を流すやうな話を速記すると云ふのも結局は練習の結果なのであります。ところが同じ學問技術にしてもその學習方法の惡るいために勞多くして酬ゐられることが少ない場合が往々にして見受けられるのです。そこで最も能率的な初學者の速記學習法をお傳へしやうと思ふのですが、これ以上の秘訣は絶對にあり得ないのです。大體の教材としては新聞紙のやうな斷片的なもので簡單にしてそしてその內容が社會百般に及んでゐるものを使用するのは一番よい効果を擧げます。

### 1. 速記符號を完全に暗記せよ

これは第一に必要なことです。肝腎な符號を一つでも忘れては完全な速記の出來る筈がない。忘れた符號を考へ、曖昧なもので誤魔化さうとする間に演者は次から次へと新



しい發音をして行くのですから一秒と雖と疎かには出來ない。符號は勿論それに關聯したいろゝな應用法則等も十分記憶しなければ進歩は望めないのです。

### 2. 符號を正しく書く練習をせよ

正しい符號の暗記が出來たならばそれを正しく書くことです。定められた長さ、角度などの約束によつて間違ひなく書くことです。その符號も自分の手の癖で運筆上うまく行かぬからとて勝手な書き方をすることは絶對に禁物です。定められた法則によつて正しく書く練習を十分にやつて下さい。誤つた符號や惡い癖がつくと生涯つきまとひ、それが爲に速度を遲くし反譯に苦しむ等、貧乏神に取付かれたやうなものですから、くれゝゝも注意することです。符號も總て簡單な幾何學的な線でありますから、頭がよいと自惚れる人は見たゞけで暗記したからいつでも書けると思つて居たら大間違ひ、憎らしや手はちつとも動いてくれない。必らず眼と手と共同の上ならでは出來ないのです。

### 3. 先を追はず基礎をつくれ

初學者の常として足許の建設を忘れ先を追ふのに夢中に

なり鵜呑みにしたのはよいがその實何も判つて居ない場合が澤山あります。急がば廻れ、一意專心牛歩的に反覆練習してその基礎をつくることが大切です。本講座では先づその課目の說明があり、速記法があり、課題が出て來ますが、その課目內のものを十分暗記し字形も亂れず、そして相當早く運筆も滑かになつてその課目に含まれてゐる符號だけはどんな場合にあつても最も早く書けてそしてすぐ反讀されるやうになるまで數百回これを續ける。さうして十分練習し基礎をつくつたならば初めて次の課目に移るやうにし、次の課目でもこれを繰り返し前課目で習つたものとを混ぜ合はせて次々へと呑み込んで行き手指も慣らすやうにするこれだけは嚴守して下さい。殊にその課目內で或る符號同志の連綴が運筆上うまく行かぬものが一語でもある以上それは完全なものでなく、前進することの許されない證據なのです。さうした場合、運筆や連綴の圓滑に行かぬ符號に對して更に數百回の練習をして下さい。さうすると速度も出るし運筆も一定の癖によつて滑かになり、象形文字として眼で見てすぐ判る一つの形が創れて來ますが、こゝまで進むとその符號はどんな場所にあつても一番早く讀むことが出來るやうになるでせう。



## 4. 綴字の練習は單語から

初めは書けるが僅に速記文字を弄んで、長い連綴をして喜んでゐる人もありますが、これは學習上何の役にも立ちません。やはり規則正しく練習問題の單語からどしゝ書きこなし確實な符號の暗記と、正しい書き方をより以上に徹底させ、その上で短かい文章に及ぶやうにすると記憶力を新たにして練習の効果も大となります。野猪的盲進は速記に大禁物です。

## 5. 速記したものは必ず讀め

速記上達の秘訣は“書いたものは必ず讀め”に盡きるのです。練習當時よくこれを疎かにして、唯速力の進步、正確なる符號の書き方、その記憶等に力を注いで、さて練習速記したものを讀み返へすと云ふその根本を忘れてゐる人が多いのです。これは一番恐ろしいことで誰しもが陷る誘惑の一つです。速記したものを反讀せずに速度を主にしてやつた曉には、その速記力は相當の域に達しても反譯が全く不可能であつて、自分で速記したものを一つも讀めないと云ふ一寸想像の出來ないことが起るのです。これでは本

末顚倒です。速記は一つの手段であつて、その目的は演者の云ふことを普通の文字にして、その意志を誤りなく再發表しやう、と云ふにあるのです。どんなに速記が綺麗に速度が早く書けやうとも、それは何人も讀み下すことは出來ないでせう。速記した本人さへ讀めぬものが他人に判る筈がありますか。これ等の罪も結局は最初の練習時代から速記したものを讀むやうにしなかつた爲めであります。また初步時代は、長く書くと嫌怠甚しく、記憶も散漫となり、隨つて反讀する氣も失はれる、と云ふ通弊がありますから大てい一文の速記時間を五分間とし、それ以上は絕對にやらず、五分間速記して二十分間で反讀、速綴の研究、再吟味するやうにして一文に三十分を費し、それが完全に終つてから又次の一文へ進むと云ふやうにし、二時間もあると云ふ時間に惠まれてゐるときには後でそれを全部まとめて再び速記して一層運筆の習練を積むのもよいでせう。どんな場合でも速記したものは必ず反讀し正誤を嚴重にすると云ふ習慣をつけることです。

## 6, 練習時間を効果あらしめるには

練習時間は毎日二時間なり三時間 — 連續三時間以上の



練習は益なし — づゝ日課のやうにやつて下さい。そして時間的に効果ある方法は連續を避けて一日二時間の時間が自由になるとせば朝一時間、夜一時間と二回に分割した方が能率最もよく、一二週間練習を怠りあわてゝ二三日ぶつ通して練習したとて効果はないのです。忙しいときは三十分でもよいから毎日缺かさず練習をすることです。

## 7 指の運動怠るな。

練習はまた紙と鉛筆がなければ出來ぬと思ふては不可ません。混雜した電車の中、夜眠りに陷るまでの床の中の時間、街路を步るいて居るときにも絕へず出來るのです。その方法はと云ふと、人差指で速記することです。これならポケツトの中でも出來るでせう。その効果は塵も積つて偉大なものとなるのです。

## 8 單獨練習よりも二人でやれ

基本符號が判り或る程度の文章がソロ〳〵書けるやうになると讀んで貰ふ相手が欲しくなります。その讀手には細君もよいでせう。また妹や弟達もよいでせう。それにも增して効果のあるのは自分と同じ程度の速記初學者で氣の合

ふ友達を求めることです。それで最初から二人で學ぶやうにするか、若し自分一人のときは更に友人を勸めて速記黨にさせ、お互ひに朗讀研究し合ふやうにすることです。この方法によると競爭心も手傳つて進歩も早く頗る理想的です。出來る限り斯う云ふ方法を取つて勞力と時間を無駄にせぬやう効果的な練習を續けることが必要です。

### 9 朗讀の速度は？

練習朗讀をして貰ふ場合にはその相手の何人たるを問はず自分の書ける範圍の速度に讀んで貰ふことです。速記力より讀み方の早いときは徒らに字形を崩し綴字を不正確にする習慣を破るばかりでなく、書いたものも反譯出來ず練習の効果を根本から覆へすことになります。どんな場合でも、自分の速記し得る、そして反譯し得る速度内で朗讀して貰ふと云ふことを忘れては不可ません。

### 10 嫌なもの程手まめに書け

誰しも趣味の相違から一つの文章、講話にしても好き嫌ひがあります。運動、文藝が好きで經濟、政治が嫌ひだとか、いろいろありますが、速記にしても勿論自分の好きな



問題になると能率がよく、その反對に嫌ひなのは出來が惡い。要するに内容の理解が足りないために起ることでありますから初歩時代から・自分の嫌ひなものでも單語、文章、講演等を出來る限り練習し、總てのものに廣く淺く平等に理解し得るやう素地をつくることが大切です。斯うした僅かな注意は、將來專門速記者として活躍せんとする人々には見のがすことの出來ぬ重要事なのであります。

6A151
2

昭和七年五月一日印刷
昭和七年五月四日發行

東京・神田・連雀町十八
著作兼發行者　中村彰吾

東京・神田・連雀町十八
印刷者　竹川芳次郎

東京市神田區連雀町十八番地
發兌元　熊崎式速記學院
電話神田㉕4,012　振替東京三七三六八番

著作權所有

372-584
1200501449247
72
84

終